

令和5年度

学校評価アンケート

結果報告

杉並区立天沼小学校運営協議会

会長 高橋 武郎

杉並区立天沼小学校

校長 薩摩 博之

日頃より本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。

また、このたびの学校評価アンケートには、保護者の皆様、児童、教職員、地域の皆様等、天沼小学校に関わる多くの方にご回答いただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

ご協力いただいたアンケート結果の集計が終了しましたので、皆様にご報告申し上げます。今年度の保護者アンケートの回収率は74.7%となり、昨年よりも多くの方にお答えいただきました。自由意見記述欄を含め、天沼小学校の教育活動に対して、ご理解をいただけている内容となっています。

以下、設問ごとの評価、自由記述欄のご意見に基づき、学校運営協議会で考察をし、次年度の教育活動に生かしていけるよう協議を行った内容です。情報不足と考えられる事柄については解説も加えておりますので、あわせてご覧ください。

学校評価アンケート実施を通してめざすもの

この学校評価は、天沼小学校の目指す学校の教育目標や、育てたい子ども像の実現のため、今年度1年間に実践してきた主たる教育活動について、様々な立場の皆様から評価をいただき、学校運営協議会にて、その成果や課題に考察を加えて、次年度の教育計画や教育活動の改善に役立てる取組です。

- (1) 児童・保護者・地域の方と連携を深めながら、一人ひとりの子どものよりよい育ちを促すために、天沼小学校の教育への理解を深めていただく。
- (2) 天沼小学校の教育活動をより推進するための評価を責任をもって行い、学校教育活動への参画意識を高めていただく。
- (3) 「安全・安心な教育環境の実現」という視点から、施設・組織としての学校運営のあり方について連携と認識を深めていただく。

全体の傾向からみた考察

❖ 全体的に高い評価を示すアンケートの結果

アンケート全21項目（設問数44）の評価回答の結果を概観すると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた「肯定回答率」は、多くの設問で8割以上となり、全体的に高い評価をいただくことができました。今年度のアンケート結果でも、「判断がつかない」との回答が減少傾向にあります。これは、保護者の皆さまに授業や学校を見ていただき、学校や児童の様子を実感していただいたことが大きな要因と考えています。一方で、まだまだ保護者の皆さまに伝え切れていないと感じられる箇所もありました。こちらについては、次年度以降の課題と受け止めています。

学校運営協議会では、年度初めに『天沼小学校がめざす教育』のご紹介」と題した冊子をお配りするとともに、ホームページの「学校運営協議会【CS】」サイトでも天沼小学校がめざす教育のご紹介をしました。こちらについて皆様にご理解いただいたことで、今回の評価結果になったと考えています。

設問ごとのご報告



ご報告の記載方法は、一番上に設問を、次にアンケート結果のグラフ、そして学校運営協議会・学校評価委員会にて協議検討した考察を示してあります。

「次年度に向けて」については、学校運営協議会がこの評価結果を受け、今後の学校運営に対しての意見を述べ、来年度の教育内容への反映を目指して協議した内容です。

また、家庭・地域の皆様と共に進めていきたい教育内容についても記載しています。学校・家庭・地域がともに連携して、天沼小学校の子どもたちの成長を支援していきましょう。



学校運営協議会の1年間の活動を振り返って

天沼小学校学校運営協議会 会長 高橋 武郎

この1年間は、コロナ禍も明け、やっと本来の教育活動が展開できる状況となった年でした。そして、昨年4月に着任されました薩摩校長先生の教育方針のもと、天沼小学校の先生方や職員の方々の並々ならぬご尽力により、これまで以上にレベルの高い教育が展開されましたことは、とても素晴らしいことと受け止めております。ここに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、私たち学校運営協議会は、薩摩校長先生を中心とした天沼小学校の先生方や職員の方々による教育がより円滑に、そしてより充実した質の高いものとなるよう、学校支援本部の方々と連携しながら、様々な取り組みを進めてまいりました。

例えば、月1回の定例会では、学校・保護者・地域の関係者が一体となって、より充実した教育が展開できるようにするための具体的な取組などについて協議を進めてまいりました。

また、広報、研修交流、学校評価の3つの分科会を設け、この学校運営協議会の活動などに関する情報提供をはじめ、保護者の皆様や地域の皆様に、天沼小学校の様々な教育活動に対する理解を深めていただくための研修活動や広報活動などにも取り組んでまいりました。

さらに、今回実施いたしましたこの学校評価アンケートも、保護者の皆様や地域の皆様からいただきました評価結果を踏まえ、今後の天沼小学校のよりよい学校運営や教育活動の推進に活かすための取組の一つです。

今回も、多くの皆様からご回答をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

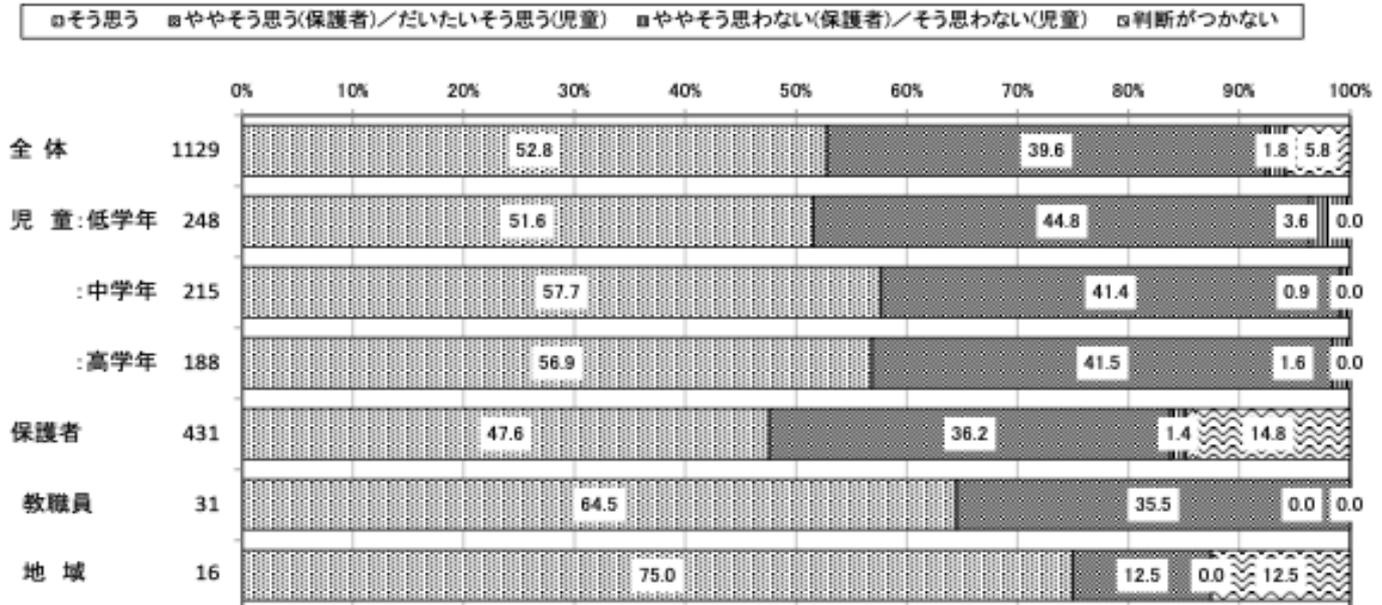
そして、これからも天沼小学校の子どもたちのために、私たち学校運営協議会としての取組や教育活動へのさらなる支援の充実に努めてまいります。

保護者の皆様や、地域の皆様には、引き続きご理解とご協力をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。1年間、ありがとうございました。

1 基礎学力の定着（「学んでわかる面白さ」をめざして）

①「あまぬま学びの約束」の実践

設問1	1・2年生 あまぬま学びのやくそくがわかり、守っています。
	3・4年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」など、学校生活のルールを守って生活しています。
	5・6年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」などのルールを守り学校生活を送っています。
	保護者・教職員・地域 「あまぬま学びの約束」に基づいた授業運営が行われている。



*以下、保護者、教職員、地域の関係者を合わせて「保護者等」として示しております。

*以下、「肯定回答率」とは「思う」と「やや思う」を合わせた回答率です。

次年度に向けて

【肯定回答率 児童 97.8% 保護者等 84.9%】（昨年度：児童 96.8% 保護者等 87.0%）

学校生活の基本ルールである「あまぬま学びの約束」（*次のページに説明のコラムがあります。）については、低学年のうちから継続的に取り組んでいきたいテーマとして今後も続けていきます。あいさつや帰宅時間、遊ぶ時間など生活における規範についてはぜひ家庭でも取り組んでいただき、学校と家庭が連携して基本的な生活規範を育てていけるよう、ご協力をお願いいたします。

自由記述欄で、労いや感謝のお言葉をいただきありがとうございます。
ご質問の多かった点や、情報として発信させていただいたほうが良いと考えた点は、私たちが以下のページにある“コラム”で解説します。
合わせてご覧ください。





“コラム” ちょっとおさらい！
「あまぬま学びの約束」って？

「あまぬま学びの約束」は、天沼小における生活の基本ルールです。
この約束を守りながら充実した教育を進めていきます。ご家庭でもお声がけをよろしくお願い
します。

授業前の約束

- ① 休み時間のうちにトイレに行くなど用事をすませておきましょう
- ② 次の学習に必要なものを机の上に出しておきましょう

授業はじめの約束

- ① 授業の始まりには挨拶をしましょう。
- ② いすにすわったままでよい姿勢をしましょう。

(例)「よい姿勢をしてください(気をつけ)」
「これから〇〇の学習をはじめます」
「よろしくお願いします」

授業中の約束

- ・発言をするときはだまって手をあげましょう
- ・名前をよばれたら「はい」と返事をして立ちま
しょう
- ・発言の最後は「～です」「～ます」で終わり、席に
つきましょう
- ・先生や友達の話聞く時は、だまって最後まで、
しっかり聞きましょう
- ・正しい姿勢や、正しい鉛筆の持ち方で学習しまし



授業終わりの約束

- ◆授業の終わりには挨拶をしましょう。
 - ・いすにすわったままでよい姿勢をしましょう
- (例)「よい姿勢をしてください(気をつけ)」
「これで〇〇の学習を終わります」
「ありがとうございました」



持ち物の約束

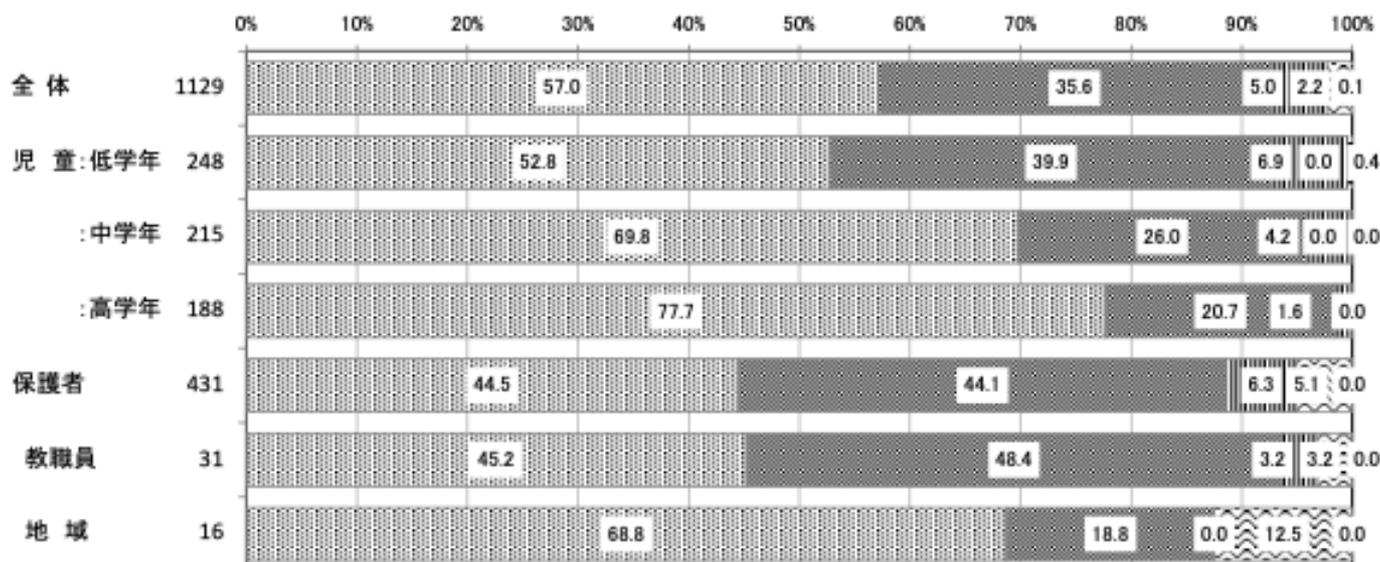
- ◆ふでばこの中に入れておくもの
- *けずった鉛筆5～6本 *赤鉛筆1本 *消しゴム1個
- *定規 *名前ペン
- *シャープペンシルは持ってこない。
- *勉強と関係のないものは持ってこない。
- *高学年は、必要に応じて、筆箱に入るだけの色ペンをもっ
てきてよい。
- ◆道具箱の中にならずに入れておくもの
- *のり *色鉛筆 *はさみ *セロハンテープ



②すべての教育活動での言語活動の充実

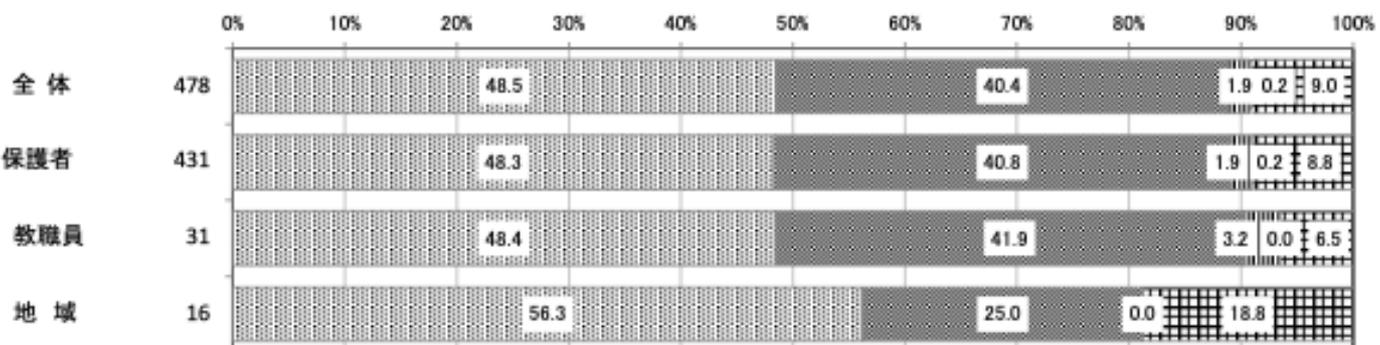
設問2	1・2年生	授業の中で友達の話の聞いたり自分の考えを発表したりしています。
	3・4年生	授業では、話し合ったり考えを発表したりする活動があります。
	5・6年生	授業中に話し合い活動や振り返りの活動の時間があります。
	保護者・教職員・地域	授業を通して、学びの基本となる「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」力が養われている。

☐ そう思う ☑ ややそう思う(保護者)/☑ だいたいそう思う(児童) ☑ ややそう思わない(保護者)/☑ そう思わない(児童) □ 判断がつかない ▨ 無回答



設問3	保護者・教職員・地域	授業では話し合い活動を通じて自分の考えを表現したり、振り返りで具体的な言葉での表現を考える取組が行われている。
-----	------------	---

☐ そう思う ☑ ややそう思う ☑ ややそう思わない ☑ そう思わない □ 判断がつかない



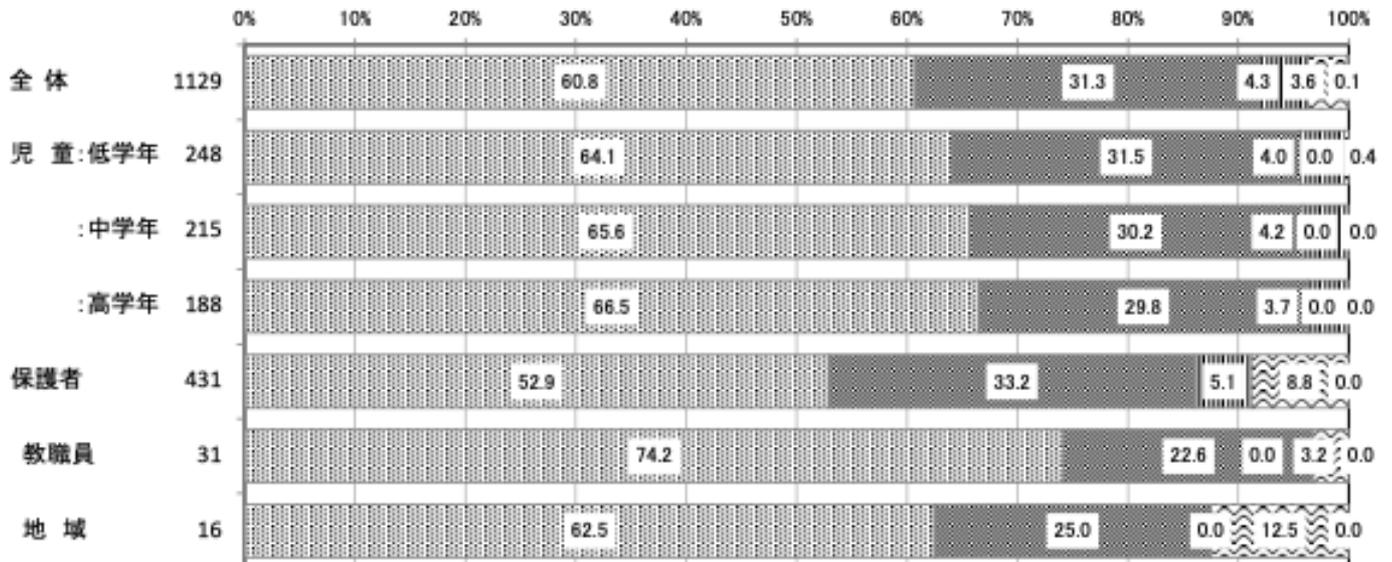
次年度に向けて

【肯定回答率 児童 95.4% 保護者等(設問2)88.9% (設問3)88.9%】
 (昨年度: 児童 96.9% 保護者等(設問2)88.8% (設問3)85.9%)
 アンケート結果を見ますと、学校におけるすべての教育活動において、自分で考え、自分の言葉で伝え、他者の意見をしっかりと聞く力を養う機会が、学習の中で積極的に設けられていることに対する評価になっています。これからの社会では、こうしたコミュニケーション力がとても重要になっていきます。今後も引き続き「聞く」「話す」「読む」「書く」力をバランスよく育てる指導、さらに発表のときには原稿に頼らず、自分の言葉で話す力を養えるように取り組んでいきます。

③算数少人数指導の実施

設問 4	1・2年生	算数少人数の授業では、学習の進め方が自分に合っていて、わかりやすいです。
	3・4年生	算数少人数の授業では、学習の進め方が自分に合っていて、わかりやすいです。
	5・6年生	算数少人数授業では、自分に合った速さで学習ができ、内容の理解につながっています。
	保護者・教職員・地域	多様な指導方法により、意欲的に取り組める学習環境が整えられている。

□ そう思う ■ ややそう思う(保護者) / だいたいそう思う(児童) ■ ややそう思わない(保護者) / そう思わない(児童) □ 判断がつかない ■ 無回答



次年度に向けて

【肯定回答率 児童 95.9% 保護者等 86.8%】(昨年度:児童 88.4% 保護者等 84.8%)
 児童の肯定回答率を見ますと、算数少人数指導に関しては、日々の取組が成果につながっていると感じられる結果となりました。児童数が増加傾向にありますが、今後も児童一人ひとりの学習状況に合わせた指導を継続していきます。



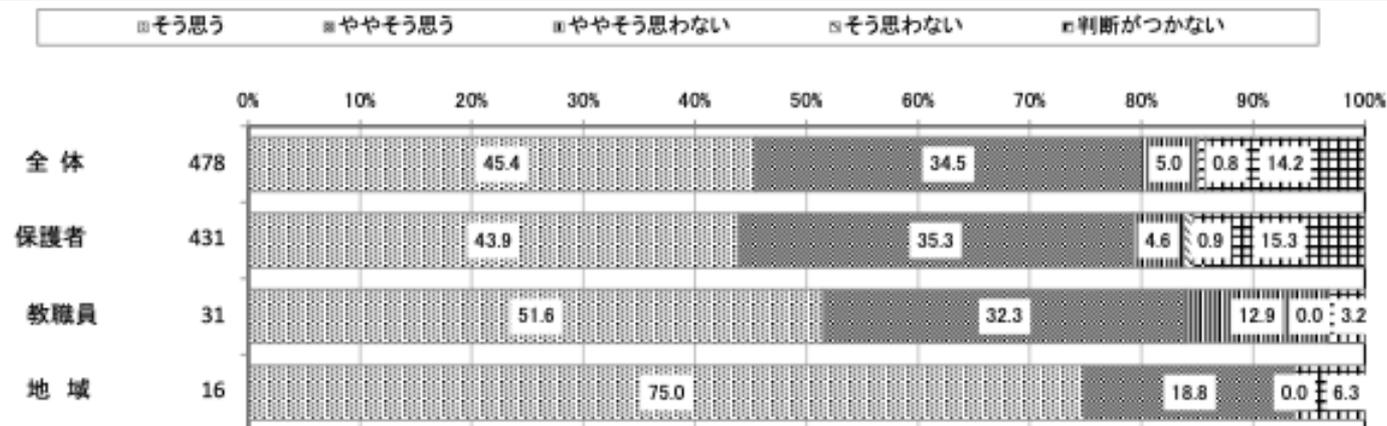
“コラム” ちょっとおさらい!
 「算数少人数指導」って?
 どういう意味があるの?

天沼小の算数の学習では、担任に加え算数少人数担当教員等との連携により、4学級を5つ、3学級を4つ、また2学級を3つに分ける等で授業を行い、学習の目的や内容に合わせ、個々に合ったきめ細やかな指導方法を取り入れています。それにより、児童一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境がつくられています。

また、習熟度別指導の方法として、1年生は1学期に関しては、学校生活に慣れることを優先させるため、クラスごと複数の教員による指導を行い、学習が進んでからは習熟度別と分け方を変え、2年生以上は「どんどん・すくすく・じっくり」などのコースに分けて、基礎・基本部分の学習を確実に行っていき、また、理解の早い児童はさらに発展問題等に取り組むなどの工夫をしています。

④教員の専門性を生かした指導の実施

設問 5 保護者・教職員・地域 専科制や教科担当制など、教員の専門性を生かした指導が行われている。



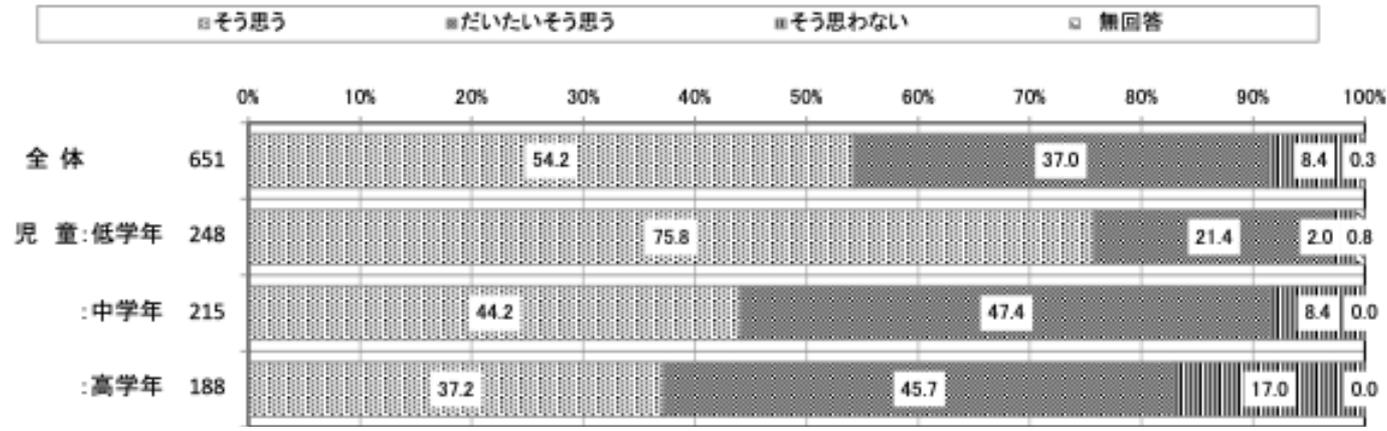
次年度に向けて

【肯定回答率 保護者等 79.9%】（昨年度：保護者等 78.2%）

天沼小では、4年生以上の学年で専科制を採用したり、他の学年では教員毎の専門性を生かしたりして教育を行うことを目指しています。今年度は、音楽、理科、図画工作、外国語（5・6年生）の各教科を専科の教員や講師が担当し、専門性を生かした教育を行うことができました。次年度も引き続き、さらなる指導力の向上と指導体制の構築に取り組んでいきたいと考えています。

⑤基礎学力定着のための取組(児童)

設問 6 1・2年生 チャレンジタイムでの学習にがんばって取り組んでいます。
 3・4年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。
 5・6年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。

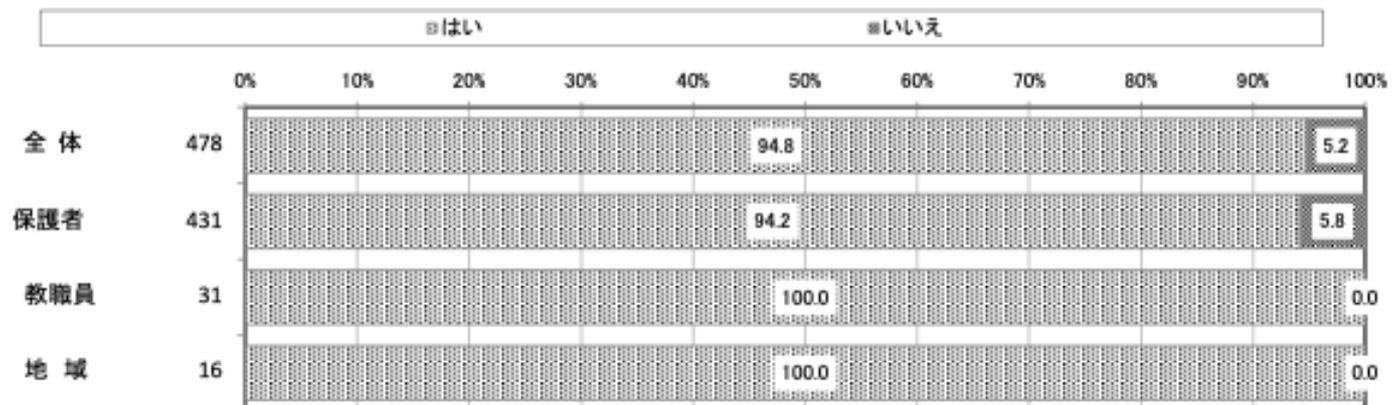


設問 7 3・4年生 私はフォローアップタイム・ハッピーすたでい・ハッピーいんぐりっしゅに取り組むことによって力がついています。
 5・6年生 私はフォローアップタイム・ハッピーすたでい・ハッピーいんぐりっしゅに取り組むことにより力がついています。

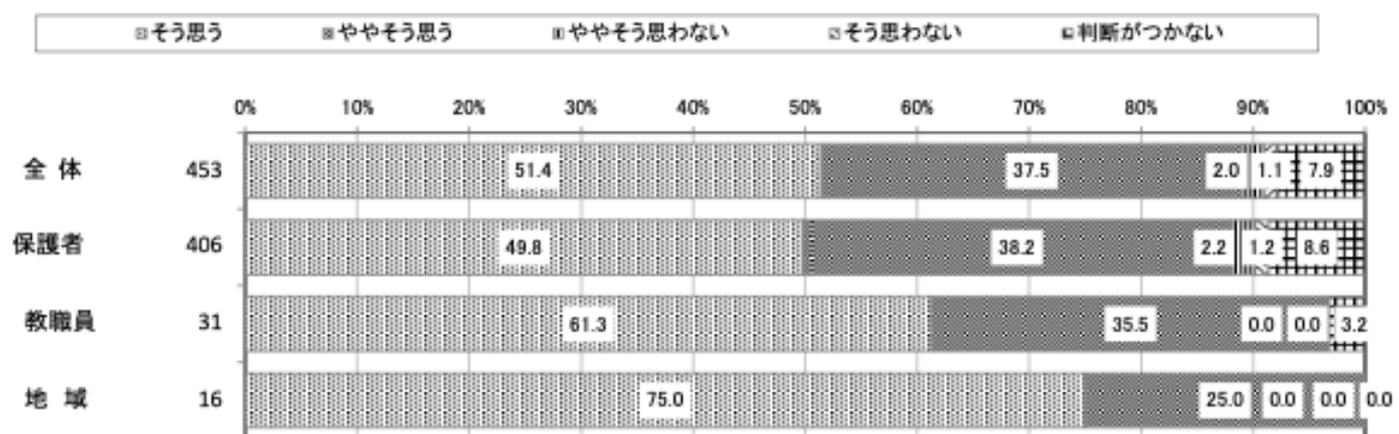
☞設問 7 については、質問の対象者を特定できなかった等の要因により回答の集計が困難な状況となり、今年度に限り、結果の掲出を控えさせていただきます。

⑤基礎学力定着のための取組(保護者)

設問8 保護者・教職員・地域 授業の他にも、基礎学力定着のためにさまざまな取組が行われていることを知っている。(※)例えば、フォローアップタイム、ハッピーすたてい、ハッピーいんぐりっしゅ、チャレンジタイム等

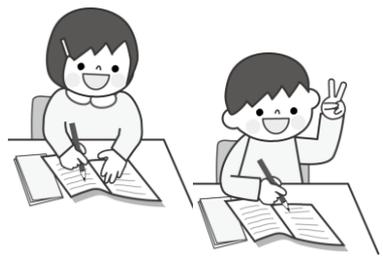


設問9 保護者・教職員・地域 設問8の取組を通して、基礎・基本的な学習の定着が図られている。



次年度に向けて

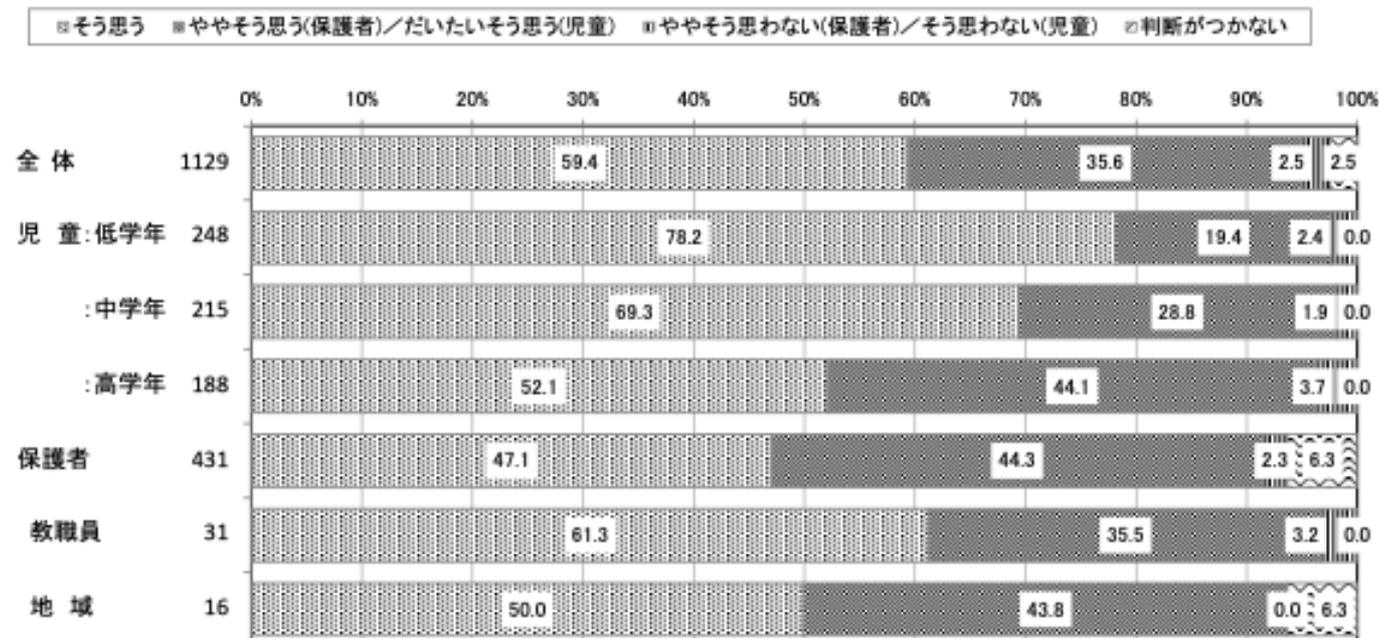
設問6について【肯定回答率 児童91.2%】(昨年度児童：肯定回答率 児童91.6%)
 設問9について【肯定回答率 保護者等89.0%】(昨年度：肯定回答率 保護者等89.3%)
 「チャレンジタイム」を用いた学習時間については、特に低学年を中心として成果につながっていると感じられる結果です。
 「フォローアップタイム」等の取組学習についても、多様な学習機会の一つとして、今後も有効に活用していきたいと考えます。
 どちらの取組も保護者への周知がされており、高い肯定回答率を得ております。このような活動は、継続して取り組むことが成果につながっていきますので、次年度以降も、学校支援本部等の地域協力者と教員との連携をしっかりと図り、学齢に応じてより効果的な学びの場として継続していきます。



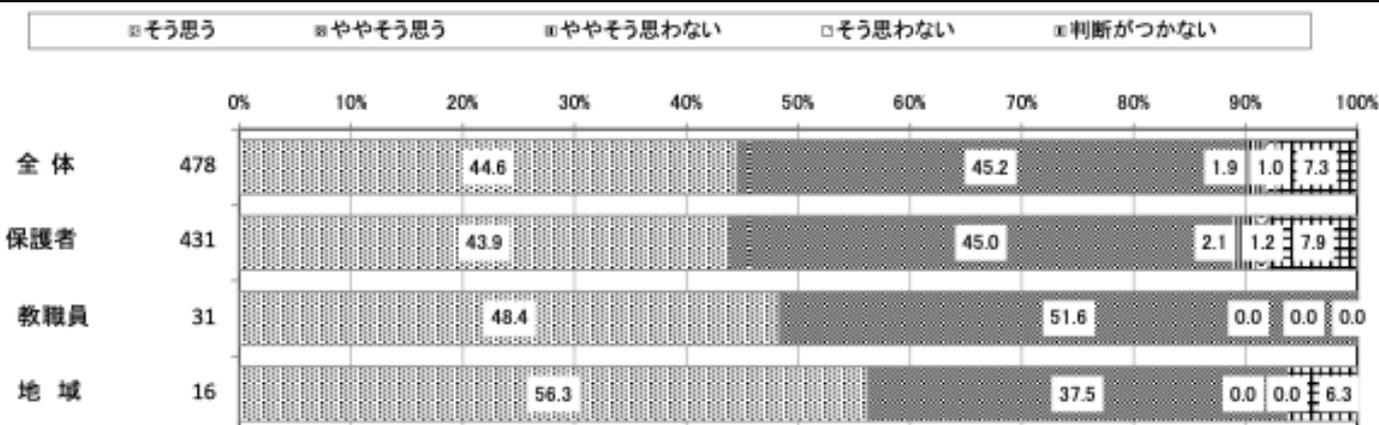
2 豊かな人間性の育成（「人とかかわる面白さ」を体感する）

⑥規範意識の醸成

設問 10 1・2年生 きまりを守ることの大切さを教わっています。
 3・4年生 人と協力すること、助け合うなどの大切なことを学んでいます。
 5・6年生 高学年としての自覚を持ち、きまりやルールを意識して行動しています。
 保護者・教職員・地域 社会のきまり・ルールを意識する指導が低学年、中学年、高学年それぞれの学齢に応じて行われている。



設問 11 保護者・教職員・地域 設問 10 の学校教育を通して、学齢に応じた判断力が育まれている。



次年度に
向けて

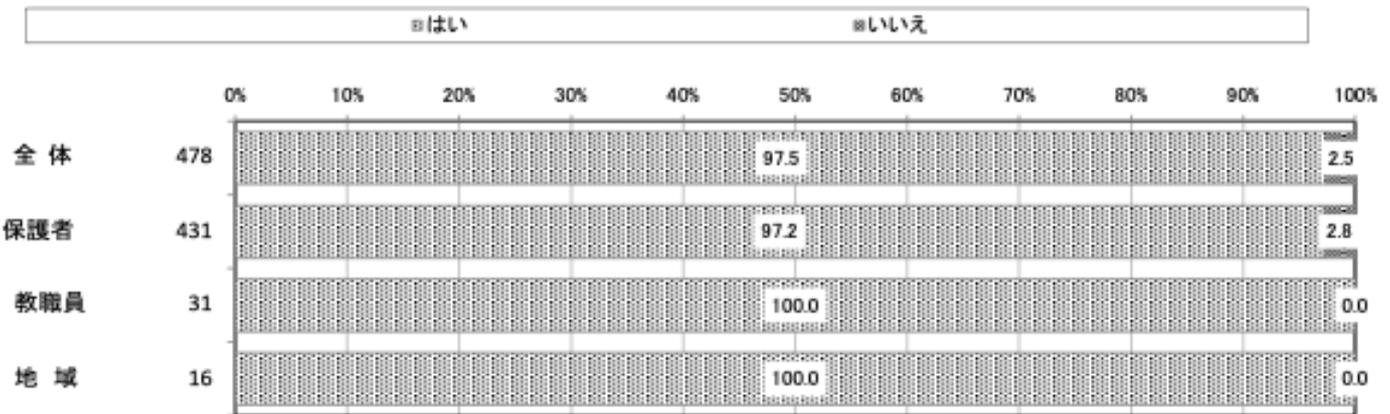
【肯定回答率 児童 97.4% 保護者等(設問 10)91.8% (設問 11)89.7%】

(昨年度：児童 95.4% 保護者等(設問 10)91.0% (設問 11)87.4%)

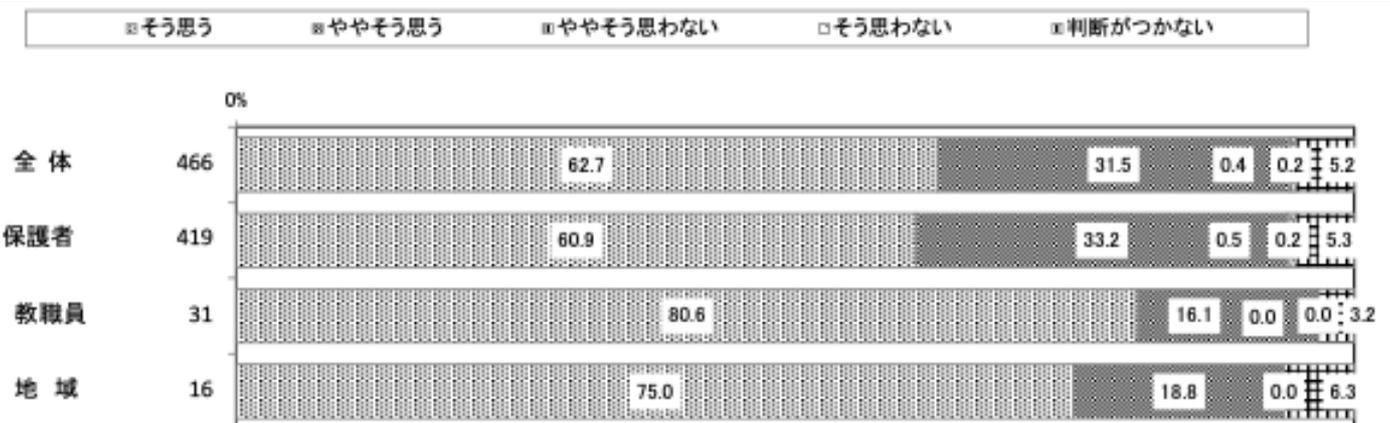
児童、保護者ともに高い肯定回答率が得られました。学校において、規範意識の向上を図り、適切な判断力を身に付けられるように意識して指導を行うとともに、学校支援本部が運営するハッピーさたでいやハッピーくらぶなどの社会教育においても、この点を意識した声かけをしてきたことが実を結んでいるといえます。規範意識を育むことは、学校運営協議会としてとても大切な問題として考えています。次年度も引き続き、地域と学校が協働して重点的に取り組んでいきます。

⑦地域社会の一員としての自覚を育む取組

設問 12 保護者・教職員・地域 天沼小と、町会や商店会をはじめとする地域の方々との交流活動が行われていることを知っている。例えば、「朝遊び」、「伝承遊び」、「地域安全マップ作り」、「障害のある方々との交流」、「天沼会社経営プロジェクト（AKP）」、「わたしたちの天沼」、「町たんけん」、「お店番体験」等



設問 13 保護者・教職員・地域 設問 12 の活動は、児童が天沼地域の一員としての自覚や地域への愛着心を育むのに役立っている。



次年度に向けて

【肯定回答率 保護者等 94.2%】(昨年度：94.2%)

地域の方々との交流については、地域社会を構成する一員であるという自覚を育むためにも、継続的に行っていきます。学校支援本部がコーディネートする地域と連携した活動が、天沼小の大きな特色です。次年度以降、より子どもたちにとってプラスになる取組のコーディネートを進めていきます。



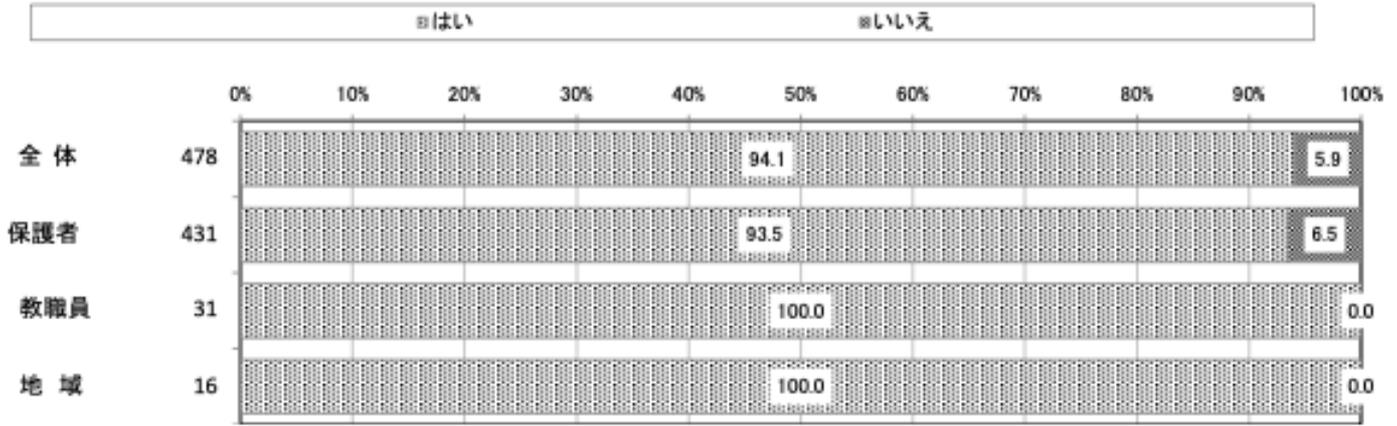
“コラム” ちょっとおさらい！
「天沼小がめざす教育」について

天沼小では今年度の教育方針として「～ワクワクする学校づくり～」を掲げています。このテーマは、下記の4つの「面白さ」で構成されています。

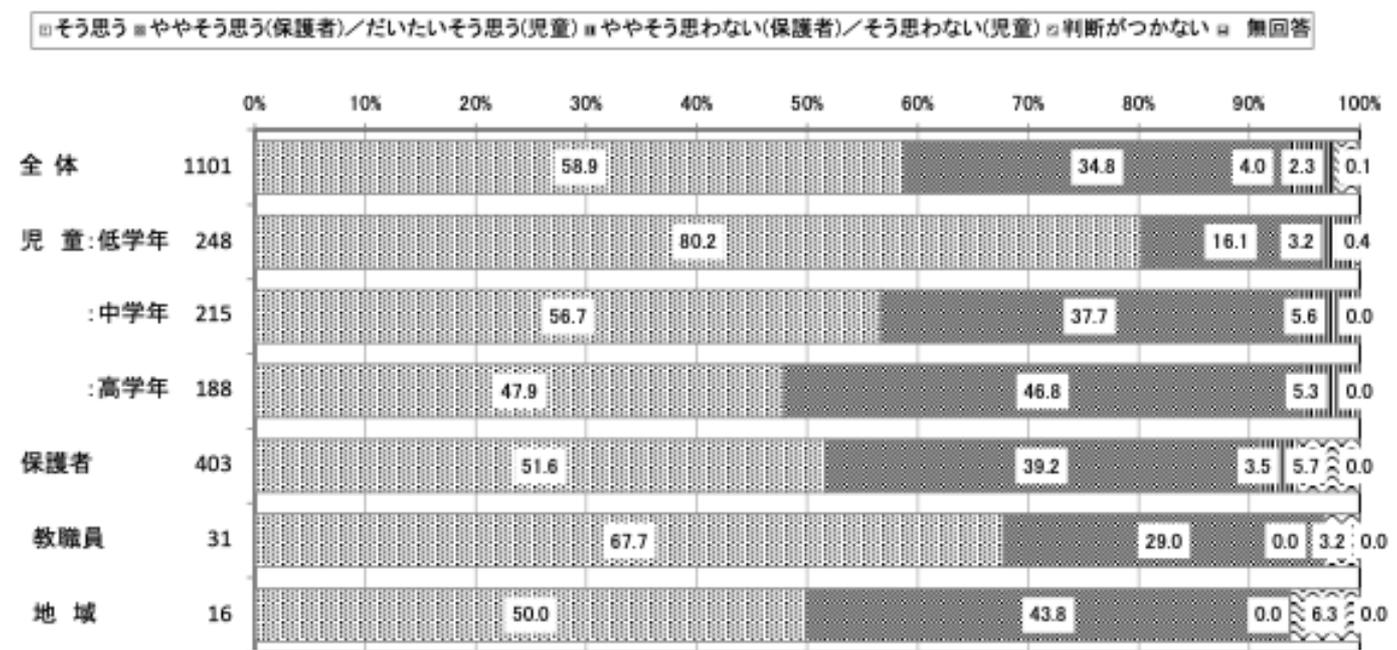
- ①「わかる面白さ」…知識や経験を身に付けることによって、いろいろなことを理解できる基礎を培う（基本基礎の充実、ICT教育の継続推進）。
- ②「人とかかわる面白さ」…多様な人たちと関わることで社会性を身に付け、自分以外のすべての人を尊敬する心を養う（地域との連携による教育、インクルーシブな心の教育）。
- ③「元気に育つ面白さ、心地よさ」…学校の中だけにとどまらず、子どもたちの人生そのものを支えていく「主体的・対話的で深い学び」を推進する（社会に開かれた教育課程の実現）。
- ④「体験交流する面白さ」…人と人とのかわりやつながりを大切にした体験活動を展開し、地域等への興味関心や愛着を高めていく（キャリア教育や日本の伝統・文化理解教育、小中一貫教育活動（AKA）、幼保小連携（わくわく交流プロジェクト）等）。

⑧すべての人とかかわって生きる喜びの醸成（インクルーシブな心の育成）

設問 14 **保護者・教職員・地域** さまざまな人たちとの関わりを大切に活動を行っていることを知っている。例えば、こだま学級との交流、副籍、全校たてわり班活動、2学年合同の学習、地域の方々との交流、障害のある方々との交流、卒業生との関わり等



設問 15
 1・2年生 たてわりはんの人たちと楽しく遊んでいます。
 3・4年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通し、ともに生活をする仲間として大切に思っています。
 5・6年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通し、ともに生活をする仲間として尊重しています。
保護者・教職員・地域 設問 14 の活動を始めとして、「お互いを理解し合い、さまざまな人たちとかわって生きる喜び」を児童が感じられるよう、機会の提供と必要な支援が行われている。



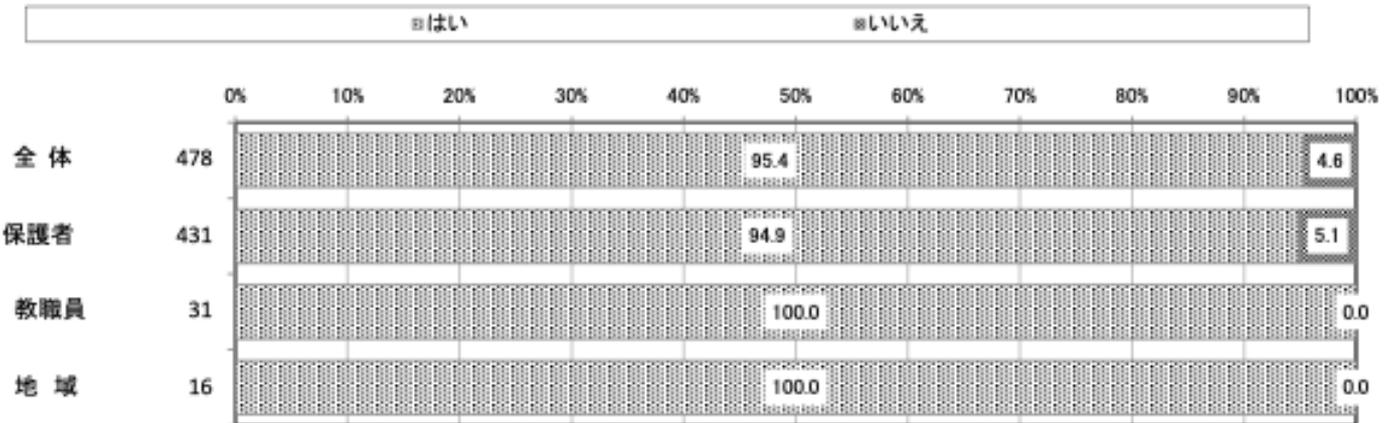
【肯定回答率 児童 95.2% 保護者等 91.3%】 (昨年度：児童 94.3% 保護者等 89.5%)
 天沼小には通常学級と特別支援学級の児童が共に活動する機会や、たてわり班における異なる学年同士の交流があります。また、4年生は障がいのある方との交流学習も行っています。こうした機会を通じ、日々の学校生活はもちろん、総合的な学習の時間等においても、「人とかわるおもしろさ」に向き合っていきます。引き続き、こうした活動をより知っていただくために、学校からの情報の発信に努めて参ります。
 各ご家庭でもぜひ、多様性を認め、様々な立場、個性を発揮する人々とともに心地よく生きていくというテーマについて会話を深めていただきたいと思います。

次年度に向けて

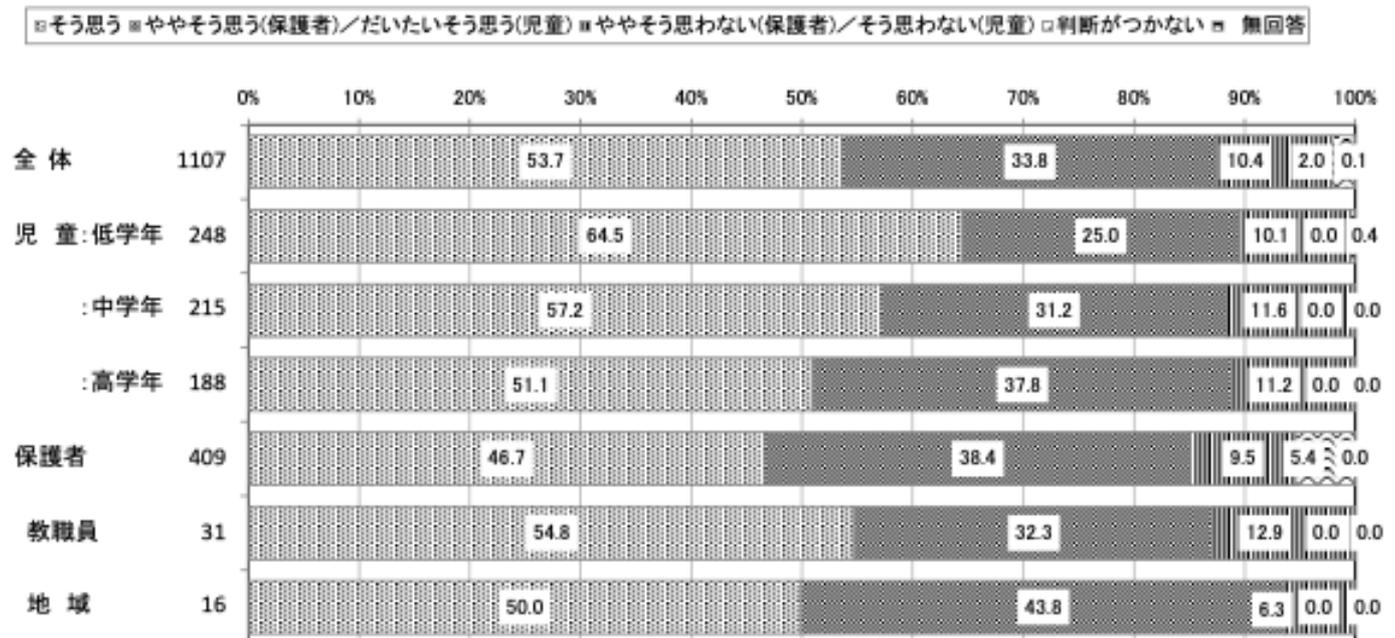
3 心と体の健康づくり（たくさんの「面白いこと」に出会うために）

⑨体力の向上と健康の増進

設問 16 **保護者・教職員・地域** 体育の授業に加えて、体力の向上と健康の増進を図る取組が行われていることを知っている。
 例えば、「なわ跳び旬間」、「持久走記録会旬間」、「朝遊び」、「放課後遊び」、放課後子ども教室「あまぬまハッピーくらぶ」、土曜日学校「あまぬまハッピーさたでい」、ゲストティーチャーの招へい等



設問 17 **1・2年生** 休み時間やなわとび、かけあしなど体を動かしています。
3・4年生 休み時間やなわ跳び週間を通して体力づくりにはげんでいます。
5・6年生 なわ跳び週間、持久走週間などの取り組みにより体力の向上にはげんでいます。
保護者・教職員・地域 設問 16 の取組が子どもたちの心と体の健康づくりに役立っている。



【肯定回答率 児童 88.9% 保護者等 85.5%】

(昨年度：児童 87.9% 保護者等 85.4%)

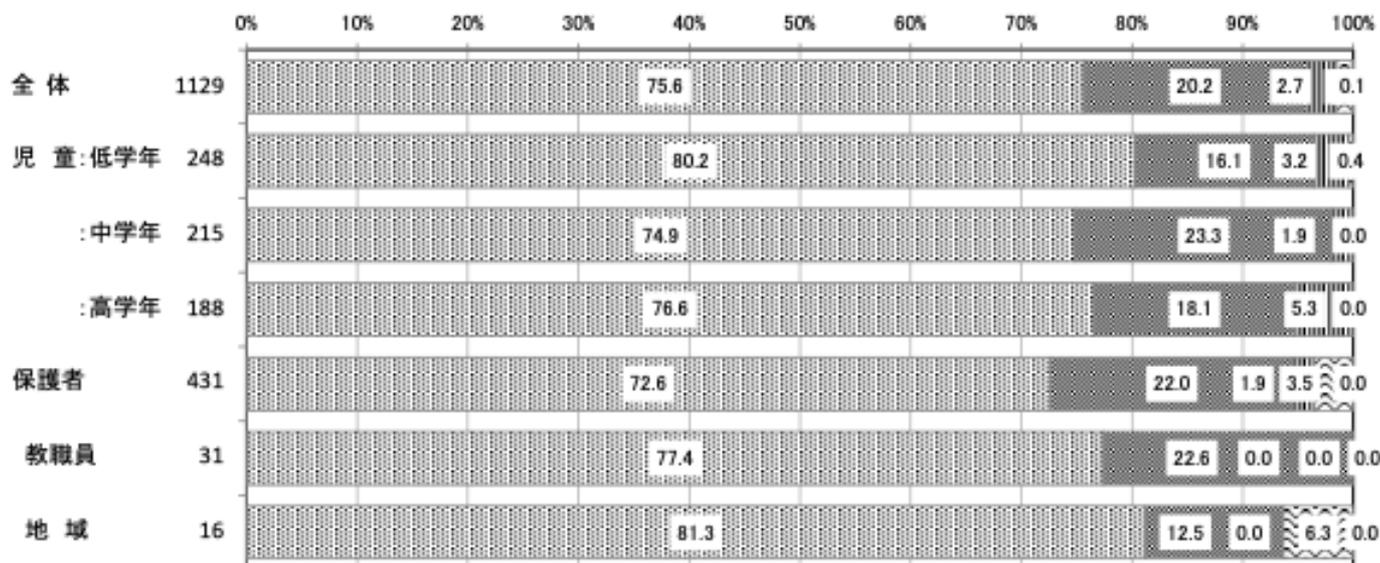
今年度行ってきた「なわ跳び旬間」、「持久走記録会旬間」、「朝遊び」、「放課後遊び」、放課後子ども教室「あまぬまハッピーくらぶ」、土曜日学校「あまぬまハッピーさたでい」、ゲストティーチャーの招へいといった各取組に対して、高い評価をいただきました。学校では、子どもたちの体力の向上は継続的な課題と考えています。通常の体育の授業を行うだけでなく、「なわ跳び旬間」、「持久走記録会旬間」といった身体を動かす取組に工夫をこらし、子どもたちの体力づくりに努めていきます。

次年度に向けて

⑩食育の推進

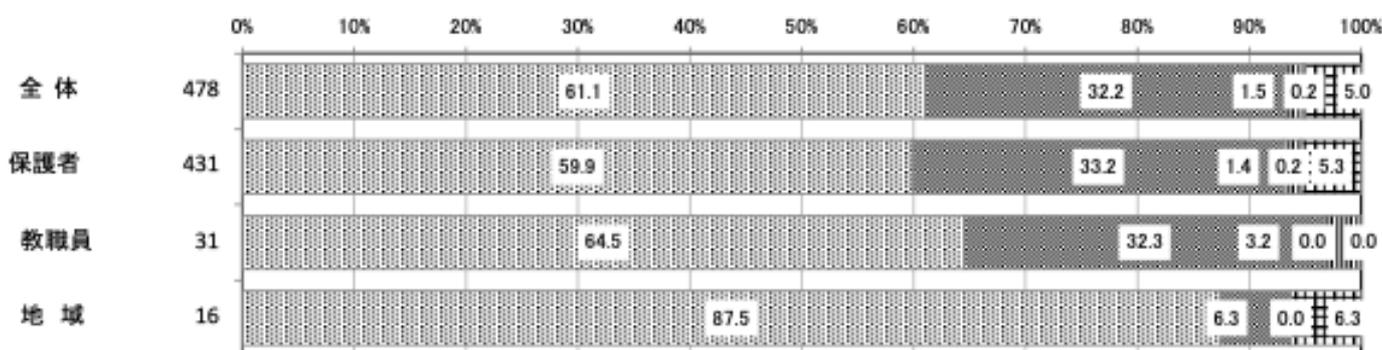
設問 18 1・2年生 楽しくきゅう食を食べています。
 3・4年生 楽しく給食の時間を過ごしています。
 5・6年生 楽しく給食の時間を過ごしています。
 保護者・教職員・地域 メニューや提供の仕方の工夫により、給食が多様性、栄養確保、食べる楽しさが
 図られたものとなっている。例えば、季節や伝統行事にちなんだメニューや伝統食の提供、物語に出て
 きたメニューを再現する図書とのコラボレーション給食、リザーブ給食の実施等

■ そう思う ■ ややそう思う(保護者) / だいたいそう思う(児童) ■ ややそう思わない(保護者) / そう思わない(児童) □ 判断がつかない ■ 無回答



設問 19 保護者・教職員・地域 栄養士から食に関する様々な情報が提供され、給食を通じた体と心の健康づくり
 が進められている。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない □ そう思わない ■ 判断がつかない



【肯定回答率 児童 96.5% 保護者等(設問 18)95.0% (設問 19)93.3%】

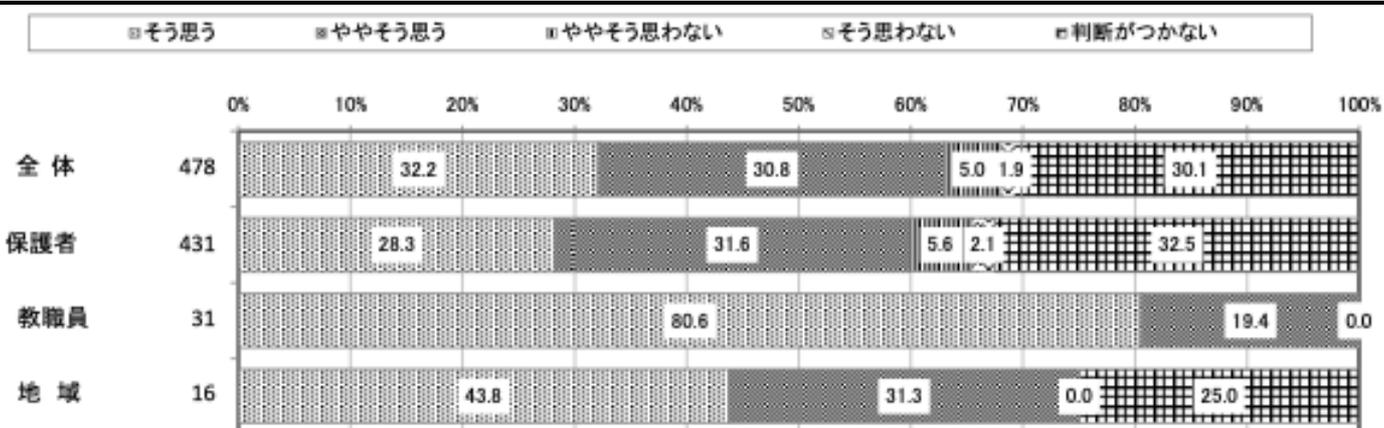
(昨年度：児童 88.5% 保護者等(設問 18)95.4% (設問 19)91.6%)

次年度に
 向けて

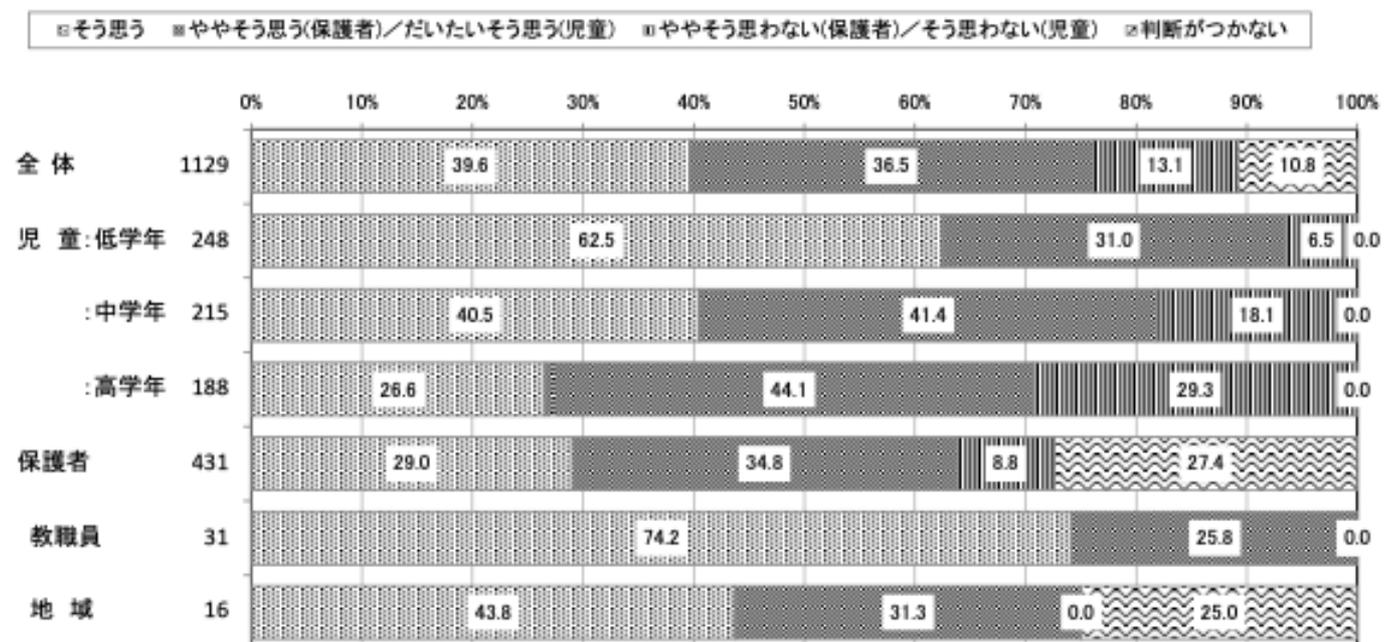
栄養士や調理員との連携により、多様なメニュー、安全で安心な給食が提供されています。毎月の「給食だより」では「食」をテーマにした話題が掲載されています。また、ホームページには「給食産地表示」というコーナーがあり、生産地や給食の写真が見られますので、ぜひご確認ください。

⑪スクールカウンセラーとの連携を通じた心の教育の推進

設問 20 保護者・教職員・地域 スクールカウンセラーと担任が連携して、人間関係に関わる問題の早期発見と予防に努めている。



設問 21 1・2年生 こまったときは先生にそうだんしようと思います。
 3・4年生 学習や生活で悩んだ時には先生やスクールカウンセラーに相談しようと思います。
 5・6年生 学習や生活の中で悩んだ時には先生やスクールカウンセラーに相談しようと思います。
 保護者・教職員・地域 気軽にスクールカウンセラーに相談できるよう、教育相談の環境が整えられている。



次年度に向けて

【肯定回答率 児童 83.1% 保護者等(設問 20)63.0% (設問 21)66.5%】

(昨年度：児童 83.2% 保護者等(設問 20)63.4% (設問 21)68.9%)

学校ではスクールカウンセラーを配置しており、児童だけでなく保護者も学校のことや友達とのかかわりなど日ごろの悩みについて相談することができます。今年度は金曜を相談日とし、保護者、児童からの相談に乗っていました。特に子どもからの相談には優先的に応じる形をとっており、1人につき2時間の面談時間を確保して、丁寧に相談に応じています。

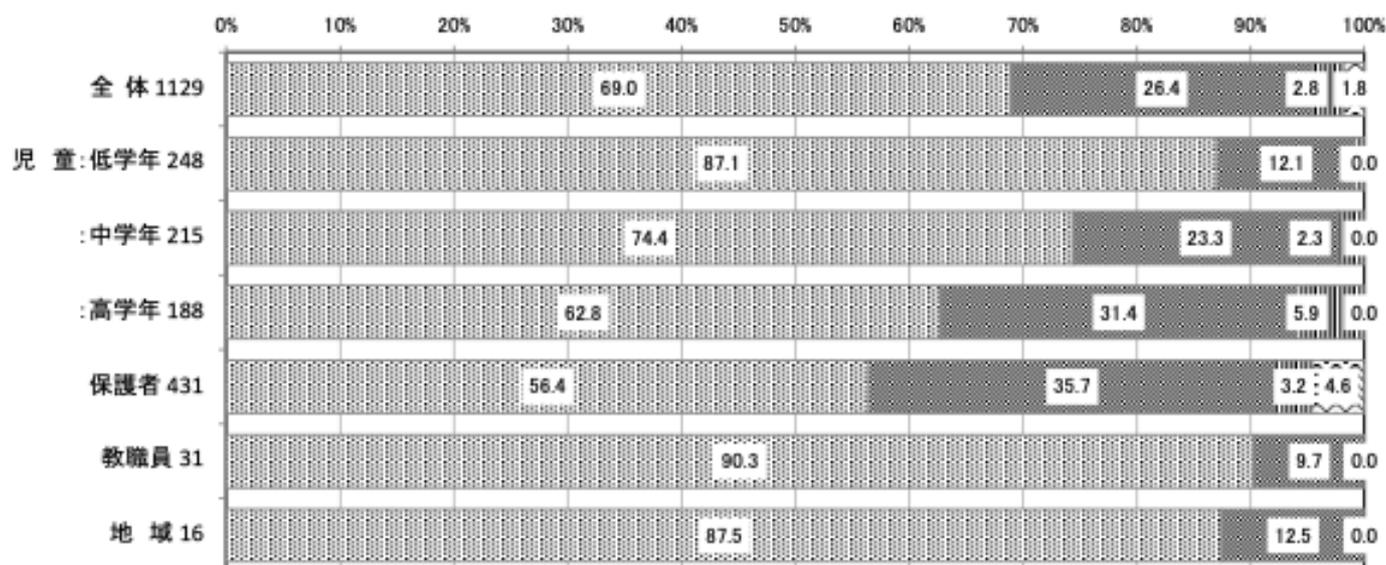
また、5年生は必ず全員が面談を行います。来年度の来校日は未定ですが、決まり次第来校日、面談時間を学校からのお便りでお知らせします。スクールカウンセラーからは、「相談」というと堅苦しくなりますので、「おしゃべり」をする感覚で気軽に話しかけてほしいとのことでしたので、気になることがあれば是非相談してみてください。

4 特色ある教育活動（「天沼小ならではの面白さ」がここにある）

②読書活動を推進するための役割

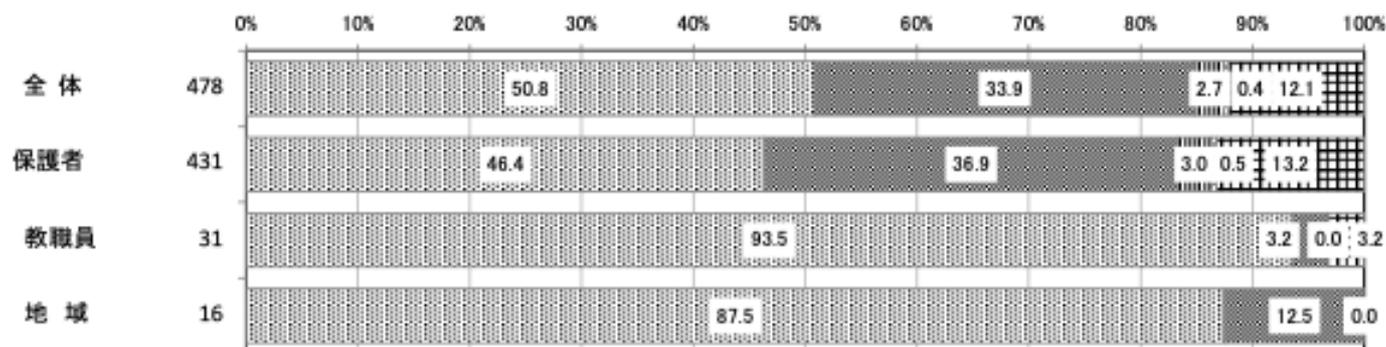
設問 22 1・2年生 読み聞かせやお話会、図書の時間を楽しくすごしています。
 3・4年生 お話会、読書旬間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
 5・6年生 お話会、読書旬間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
 保護者・教職員・地域 さまざまな取組を通して読書への関心を高めている。例えば、「お話会」「読み聞かせ」「読書旬間」など

☑ そう思う ☑ ややそう思う(保護者)/だいたいそう思う(児童) ☑ ややそう思わない(保護者)/そう思わない(児童) ☐ 判断がつかない



設問 23 保護者・教職員・地域 教員と学校司書との連携によって授業に必要な参考資料を揃えるなど、あまぬまとしょかん(「学習・情報センター」)が有効に活用されている。

☑ そう思う ☑ ややそう思う ☑ ややそう思わない ☐ そう思わない ☑ 判断がつかない



次年度に向けて

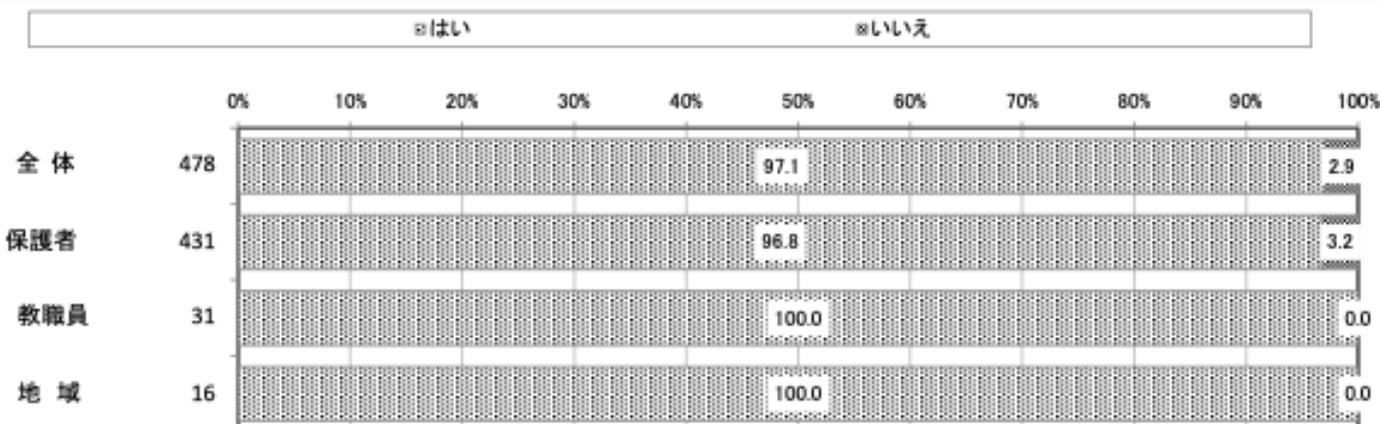
【肯定回答率 児童 97.2% 保護者等(設問 22)92.9% (設問 23)84.7%】

(昨年度:児童 97.2% 保護者等(設問 22)92.7% (設問 23)86.1%)

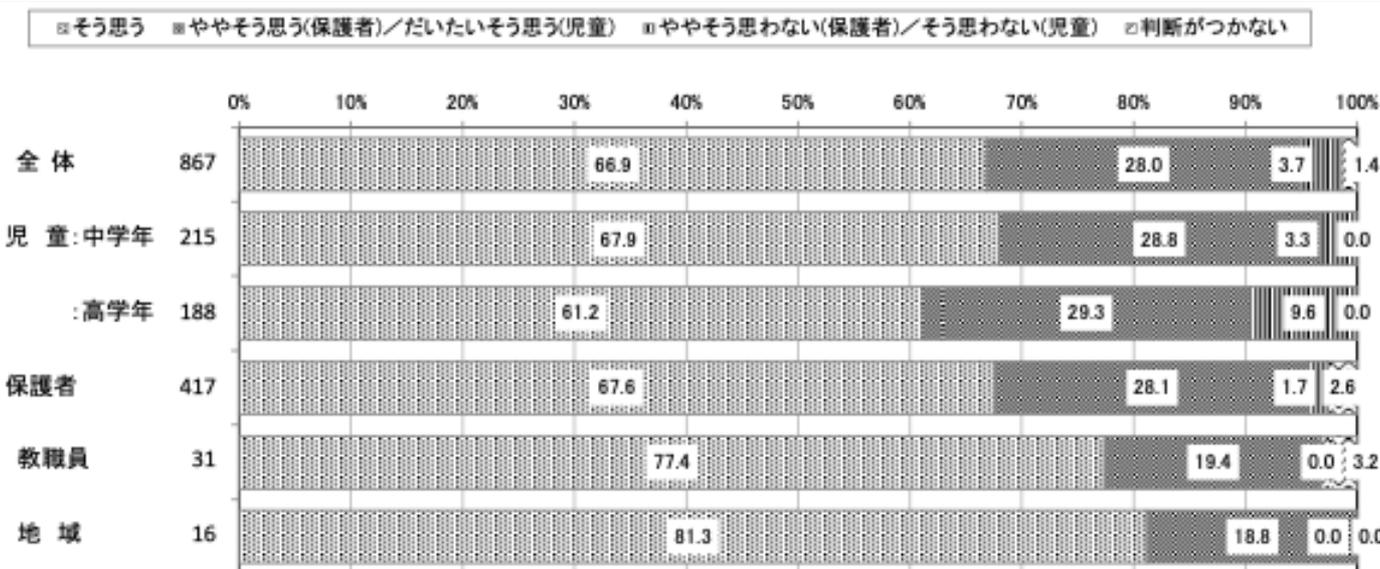
あまぬまとしょかんは、木製の素敵な書架に本が並び、子どもたちが自然に本に手をのびしたくなる図書館です。また、学習・情報センターとして資料に囲まれた中で、図書の授業が行え、子どもたち自身が必要な情報を探しやすい環境となっています。電子黒板も設置されているので、ウェブ情報と図書資料の両方を活用した調べ学習が可能になり、教科学習に生かされています。

⑬学齢に応じた体系的なキャリア教育の実施

設問 24 **保護者・教職員・地域** 学齢に応じて多彩なキャリア教育を実施していることを知っている。例えば、「あまめまつり」(全学年)、「まちたんけん」(2年)、「お店番体験」(3年)、「地域安全マップ作り」(4年)、「天沼会社経営プロジェクト」(5年)、「わたしたちの天沼」・「裁判傍聴」(6年)、「手芸」・「ペットボトル キャッププロジェクト」・「弁天池公園で花を育てる活動」(こだま)等



設問 25 **3・4年生** お店番体験(3年)や地域安全マップ作り(4年)を通して、自分が住んでいる地域のことや、人々のことがわかるようになりました。
5・6年生 「AKP(天沼会社経営プロジェクト)」(5年)や「わたしたちの天沼」(6年)などの学習は、自分の将来の生き方に役立つと思います。
保護者・教職員・地域 設問 24 の活動は学齢に応じたキャリア教育となっている。



【肯定回答率 児童 93.8% 保護者等 95.9%】

(昨年度：児童 94.5% 保護者等 93.2%)

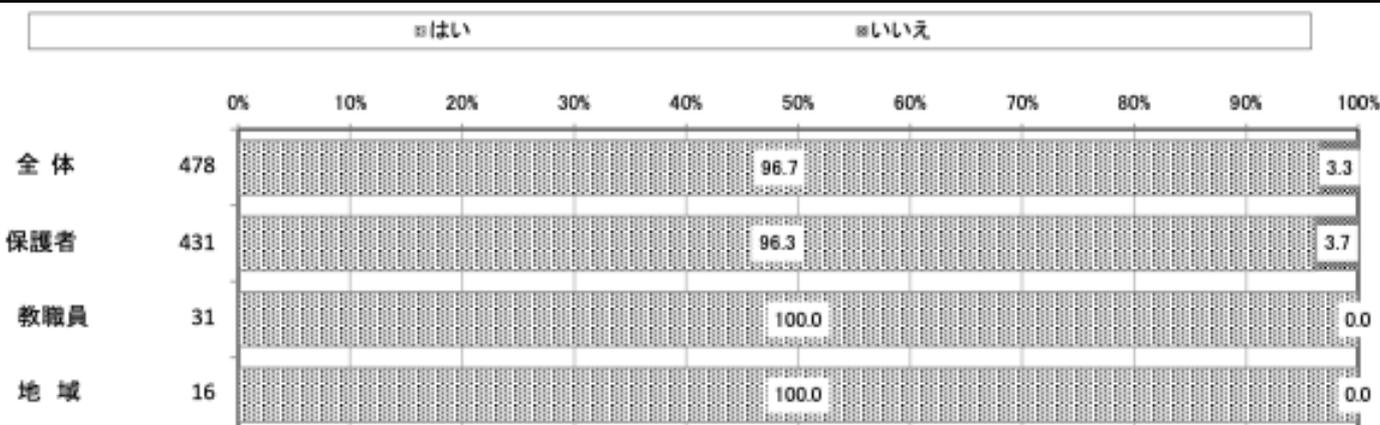
キャリア教育は、新学習指導要領で提唱する「社会に開かれた教育課程」を具現化する学習です。天沼小では学習すべき大切な教育活動と捉えて、学年に応じた内容で取り組んでいます。3年生は教会通り商店街での「お店番体験」、4年生は「地域安全マップ作り」「福祉・ユニバーサルデザイン学習」、5年生は起業家体験プログラム「天沼会社経営プロジェクト(AKP)」、6年生は地域の人たちと交流を行う「わたしたちの天沼」「裁判傍聴」、こだま学級は天沼弁天池公園荻の会の方々と弁天池公園で花を育てる活動などに取り組んでいます。

児童からも一定の評価が得られていることから、今後も天沼小の特色として継続していきます。

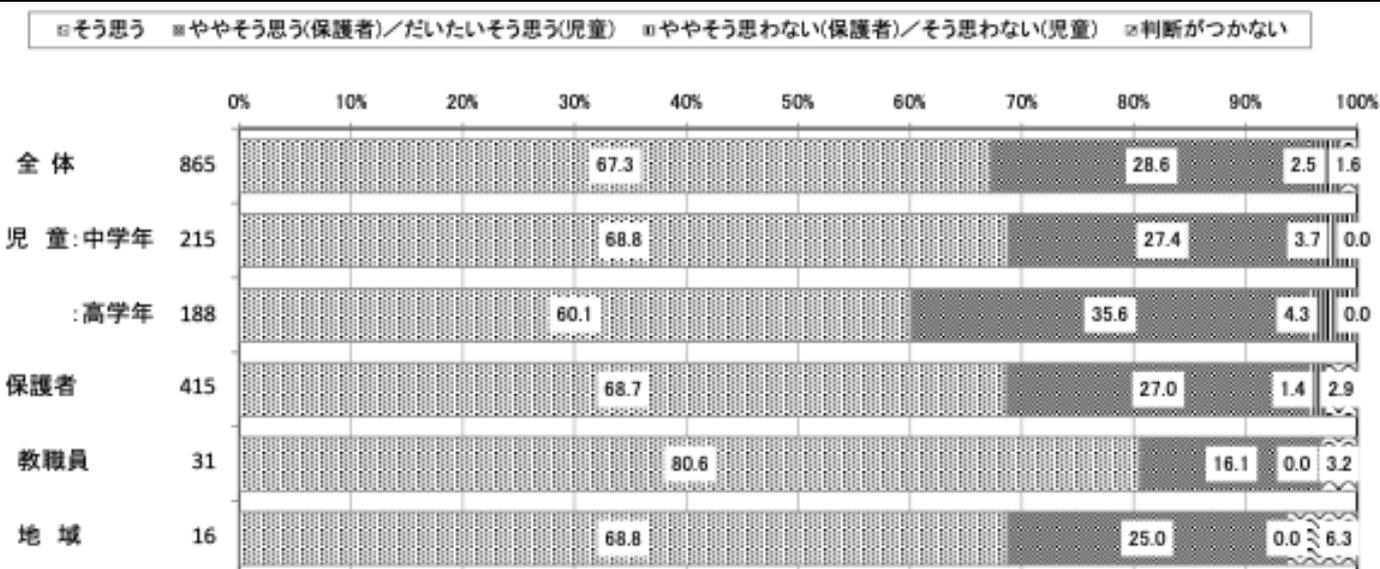
次年度に向けて

⑭ 「ほんもの」に触れる多様な日本の伝統・文化理解教育の実施

設問 26 保護者・教職員・地域 ゲストティーチャーを招いた「ほんもの」に触れる活動が行われていることを知っている。例えば、「折り紙」、「茶道」、「書道」、「華道」、「伝統工芸」、「藍染」、「和太鼓」、「和菓子作り」、「百人一首」等



設問 27 3・4年生 百人一首・書道・華道・茶道・箏の授業を通して、日本の伝統・文化にふれることを楽しみにしています。
 5・6年生 百人一首、茶道、書道、箏の授業体験などを通し、日本の伝統・文化のよさに気づきました。
 保護者・教職員・地域 設問 26 の活動によって、日本の伝統・文化への理解、郷土に対する愛着心や多様な文化への理解が深まっている。



【肯定回答率 児童 96.0% 保護者等 95.7%】

(昨年度：児童 92.5% 保護者等 93.7%)

次年度に向けて

地域の専門家をゲストティーチャーとしてお迎えしながら実施することができました。子どもたちの肯定率の高さから、理解を示されている取組と言えます。

今後も、日本の伝統・文化に親しみ、日本の良さや多様な文化を理解できる子どもたちを育てるため、学校支援本部と協働しながら取組を進めていきます。

“コラム” 知っていましたか？
天沼小の「特色ある教育活動」について



天沼小学校では学校運営協議会と協議し、以下を「特色ある教育活動」に位置づけています。

人が生きていく上で必要な「人間力」と「文化力」を育てる教育を「不易」の教育活動と捉え、学校支援本部のコーディネートのもと、毎年様々な地域の方にご協力いただきながら活動に取り組んでいます。

①日本の伝統・文化理解教育

本物に触れる体験として、茶道・華道・書道・染物・百人一首・折り紙・伝承遊び等を行っています。

そこには、グローバル社会になっても、日本の伝統文化を大切にしつつ、海外の文化も理解できる心をもって欲しいとの願いが込められています。

②読書活動

本の世界を紡ぎ出す「素話」や「絵本の読み聞かせ」など、物語に触れる体験とともに、読書に親しむ場を作り、「想像力豊かな人間性」をはぐくんで欲しいとの願いが込められています。

学校支援本部読書活動プロジェクトのメンバーは、毎月「絵本の会」という勉強会を行いながら、子どもたちのために活動をしています。

③キャリア教育

地域とかかわりながら、「社会の一員としての自覚」と、自分の役割を果たす「責任感」を養い、前向きに生きていって欲しいとの願いが込められています。以下の連携・協働団体の方々はじめ、多くの方々の協力のもと進めています。



天沼小とともに子どもたちをはぐくんでくださる地域の皆さん

杉並区内の主な連携・協働団体のご紹介です。そのほかにも、多くの地域協力者の方々にお世話になっています。

天沼地区町会

- 天沼一丁目町会
- 天沼二丁目町会
- 天沼二丁目三よし会
- 天沼尚和会
- 天沼三丁目西町会
- 天沼三丁目あかるい町会
- 本天沼西町会

東京青年会議所杉並区委員会

- 教会通り新栄会
- 寿通り商店街
- 荻窪駅前商店街
- 白山通り商店街
- 杉並かるた会
- 弁天池公園育て組「荻の会」
- 天沼八幡神社
- 熊野神社
- 東京都染色共同組合
- 子ども・子育てプラザ天沼
- 杉並ボランティアセンター
- すぎなみ協働プラザ

天沼児童館

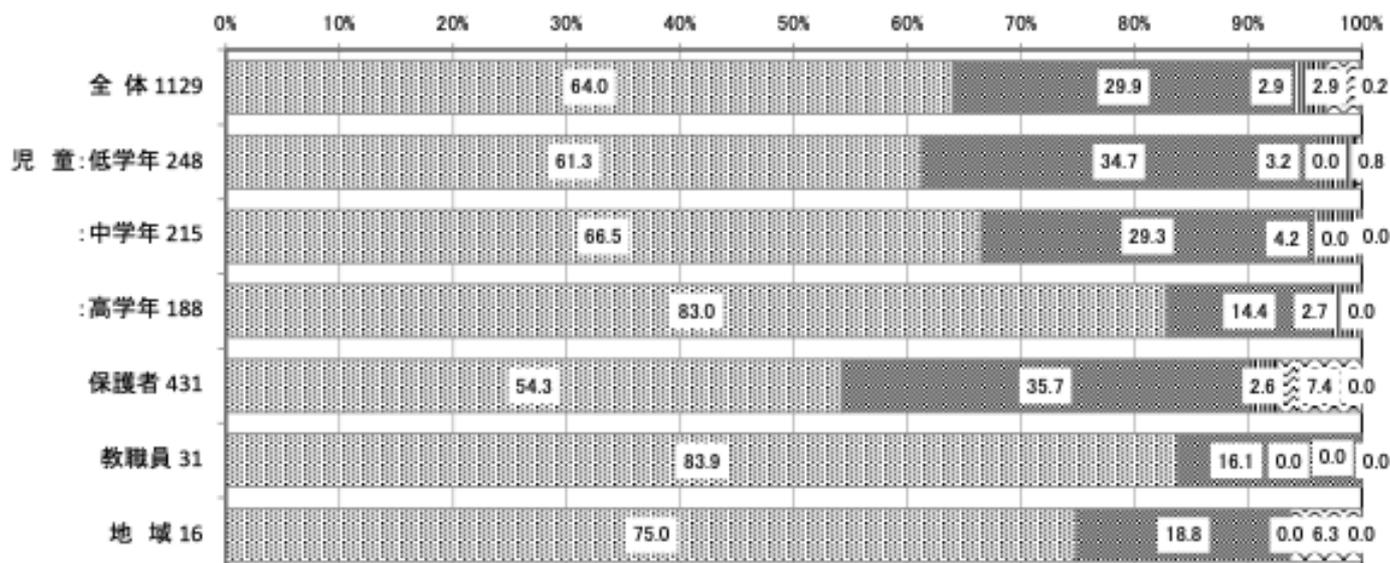
- 上荻児童館
- ゆうゆう天沼館
- 杉並区社会福祉協議会
- ケア24
- 荻窪警察署
- 杉並区役所
- サミット本天沼店
- 地域の施設
- あまぬまおやじの会
- 天沼小学校同窓会
- 天沼小学校 PTA
- など

いつもありがとうございます。次年度以降またお世話になります！

⑮ ICTインフラを活用した情報教育と、情報モラル教育の実施

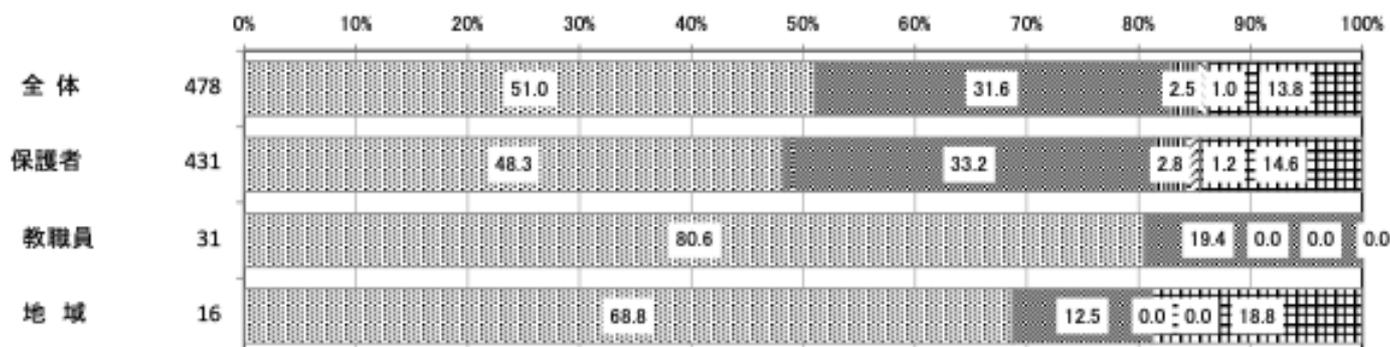
設問 28 1・2年生 授業において、いろいろなことにタブレットを使っています。
 3・4年生 授業において、いろいろなことにタブレットを使っています。
 5・6年生 授業に加え、学校生活のさまざまな場面でもタブレットを活用しています。
 保護者・教職員・地域 デジタル教科書の活用やプログラミング教育の導入等、ICTインフラを積極的に活用した活動が行われている。

☐ そう思う ☑ ややそう思う(保護者)/だいたいそう思う(児童) ☑ ややそう思わない(保護者)/そう思わない(児童) ☐ 判断がつかない ☐ 無回答



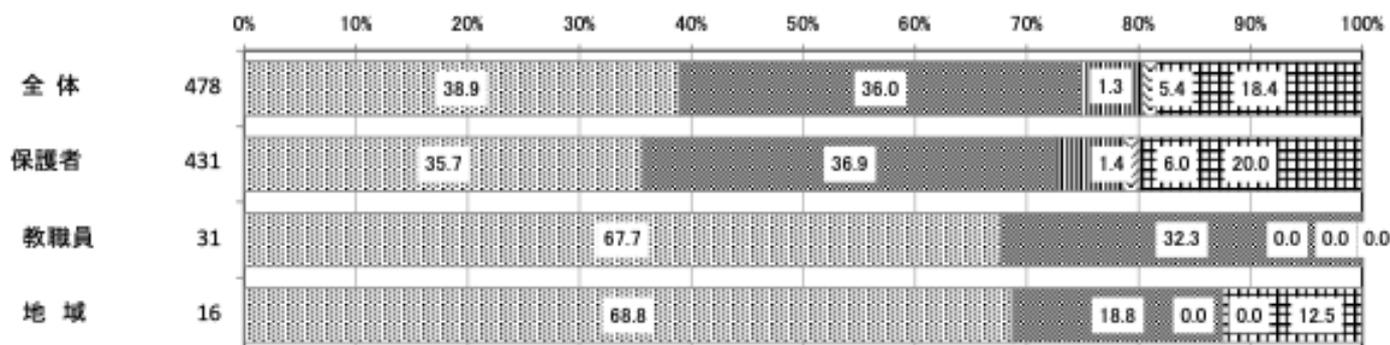
設問 29 保護者・教職員・地域 電子黒板やタブレットを、授業の中だけにとどまらず、学校生活のさまざまな場面において活用している。例えば、委員会活動、家庭での活用(3年生以上)

☐ そう思う ☑ ややそう思う ☑ ややそう思わない ☐ そう思わない ☐ 判断がつかない



設問 30 保護者・教職員・地域 ICT機器を扱うに当たって、利点だけでなくマナーや危険性も理解させる活動が行われている。

☐ そう思う ☑ ややそう思う ☑ ややそう思わない ☐ そう思わない ☐ 判断がつかない



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 96.3% 保護者等(設問 28)90.8% (設問 29)82.6% (設問 30)74.9%】

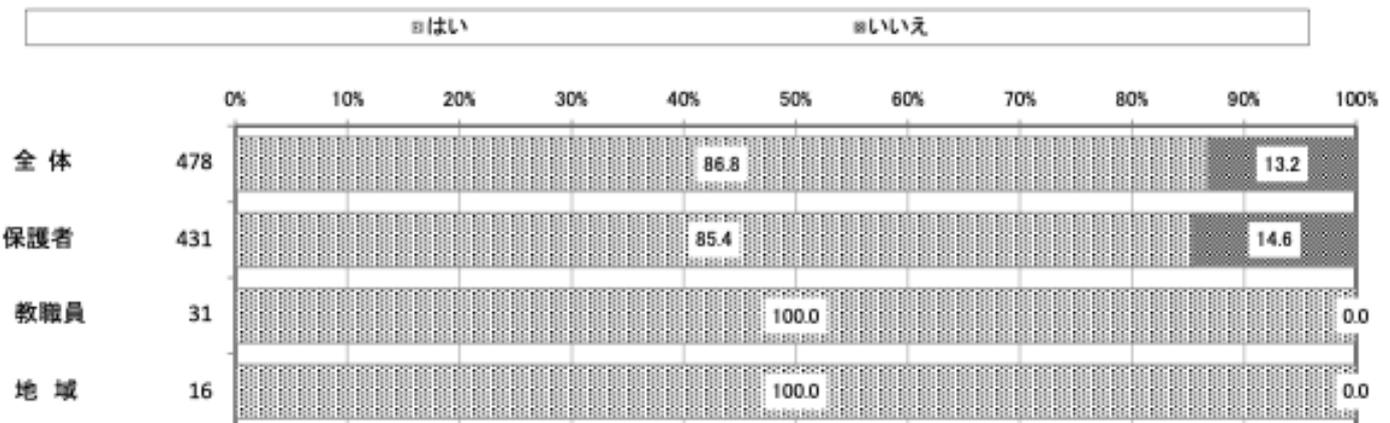
(昨年度：児童 97.3% 保護者等(設問 28)89.6% (設問 29)82.2%) (設問 30)77.8%
2月から導入された「tetoru」は今まで使用していた「まなびポケット」や「すぐメール」の終了に伴い、新たに使用するアプリケーションです。大きく2つの機能があります。

- ①学校からの連絡…保護者の方は、「tetoru」を通じて学校からの連絡事項を受け取ったり、本文中の URL (Forms) からアンケートに回答できたりします。
- ②出欠の連絡…… 「出欠連絡」では、欠席や遅刻、早退の連絡を送ることができます。

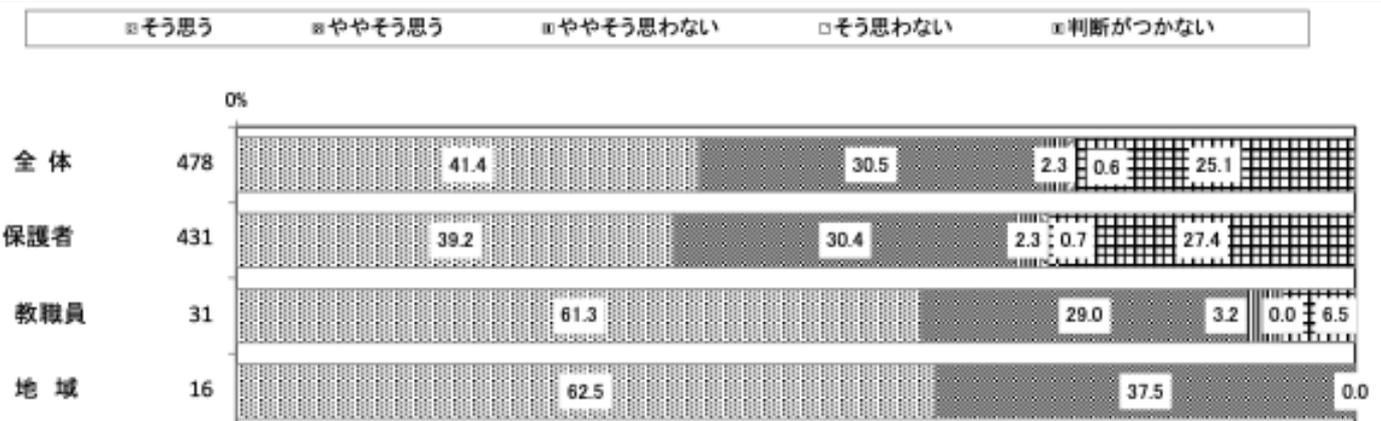
この他、学校のホームページ活用にも取り組んでいきます。2月の新一年生保護者会では、保護者会資料を学校ホームページに掲載し、いつでもどこでも閲覧することができるようにしました。今後も「tetoru」や学校ホームページの活用方法を検討し、保護者の方により早く情報を伝え、連携を図っていく予定です。

⑩天沼中学校区における小中連携教育活動 (AKA) の取組

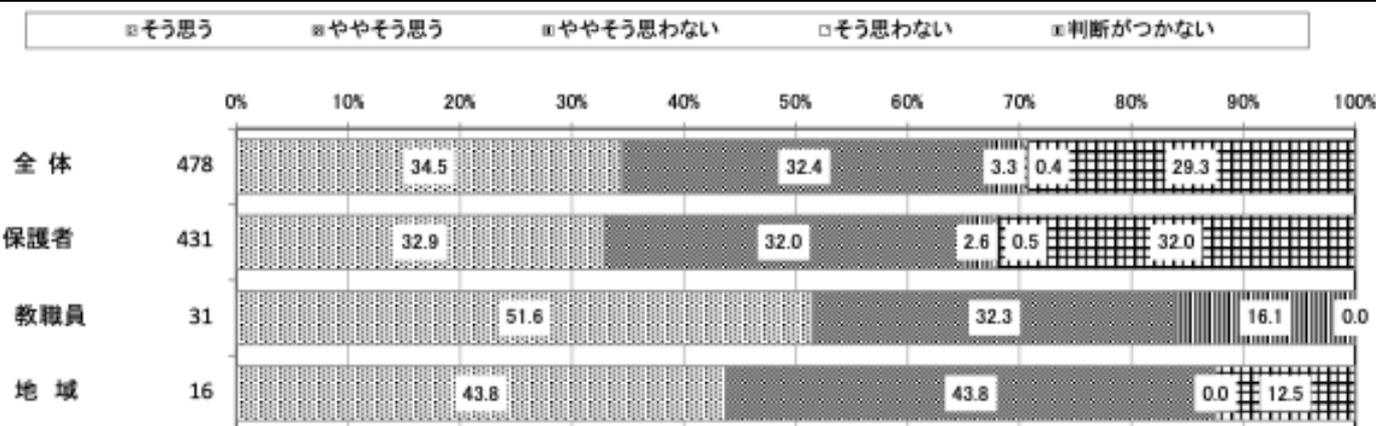
設問 31 保護者・教職員・地域 天沼小の児童が、天沼中学校全学年の生徒、杳掛小児童と交流学习を行っていることを知っている。中学1年生と6年生との百人一首大会、中学2年生による1年～4年生の各教科の授業サポート、中学3年生と5年生との HUG 訓練(防災ゲーム)等



設問 32 保護者・教職員・地域 6年生で実施する天沼中学校での授業体験、部活動体験等は、中学校生活へのイメージを膨らませるのに役立っている。



設問 33 保護者・教職員・地域 3校の教員は合同教員研修によって、情報交換、ノウハウの共有、ICT・情報モラル教育の連携推進等をしており、こうした活動を通じて、小中一貫教育の充実を目指している。



【肯定回答率 保護者等(設問 32)72.0% (設問 33)66.9%】

(昨年度：保護者等(設問 32)73.8% (設問 33)67.4%)

A K A (天沼小・沓掛小・天沼中)は、小中一貫教育に向けて、合同で研修・交流し、情報交換を行うことで、小学校と中学校の円滑な接続を図ることを目的としています。

令和5年度は、3校合同CS会議の開催、交流授業、各校での授業見学と4回の合同研修会を実施できました。また、AKAの日(1月11日)には、中学2年生が天沼小に来て各学年のサポートを行い、中学3年生は5年生と共に震災時を想定したHUG訓練を行いました。6年生は天沼中に行き、中学1年生と百人一首合同大会を行い、その後「小中未来サミット」を実施しました。来年度も引き続き、3校の教員や学校運営協議会が交流し、情報交換と研修を行っていきます。

次年度に
向けて

“コラム” 時代の変化に対応して生き抜く力を育てるための
「情報教育」と「情報モラル教育」

天沼小では、よりよい教育活動につなげるため、教職員の実践研究を進めながら取り組んでいます。

① ICT 機器を活用した授業の展開

3年生以上では、普段からタブレット端末をひとつのコミュニケーションツールとして活用しています。練習問題に取り組んだり、教科での調べ学習、子どもたちの考えを交流し合い、表現したり。また、動きを撮影して振り返りに使ったり、ソフトを活用しながら論理的な思考や判断力を養ったりと、ICTの有効活用をしています。

② 情報モラルの向上

情報を活用すればするほど、モラルの大切さが分かります。学校運営協議会主催で教職員・保護者・地域関係者で行った「サマーワークショップ 2016」においても「情報教育とモラル教育は並行して進めることが必要」という意見を出し合い、現在もそのコンセプトを生かしながら、実践を進めています。端末やインターネットの活用は、これまで以上に学習の可能性を広げますが、同時に、守るべきルールをしっかりと守っていくことで、確実な学びにつながっていきます。

③ アナログとデジタル、双方の良いところを生かす

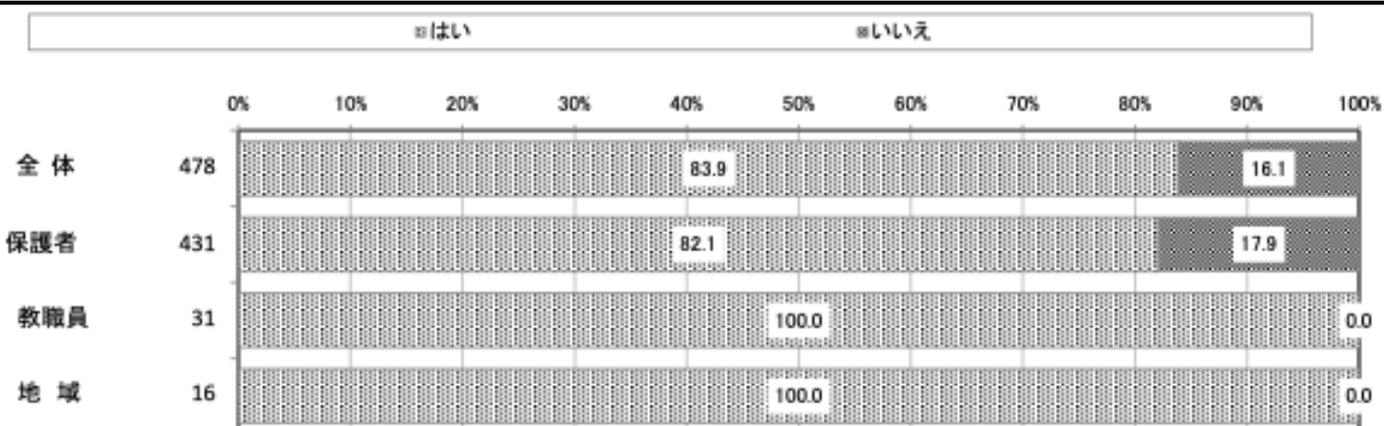
デジタルの活用をしていると、字が書けなくなる？本を読まなくなる？という不安がよぎりますが、今まで通り黒板に板書すること、紙に文字を書くことなどを併用しながら、互いの利点を合わせてより良い教育を行うことが必要です。これからもバランスを考えながら日々の学校教育を進めていきます。

④ 保護者の皆様(3年生以上)へのお願い

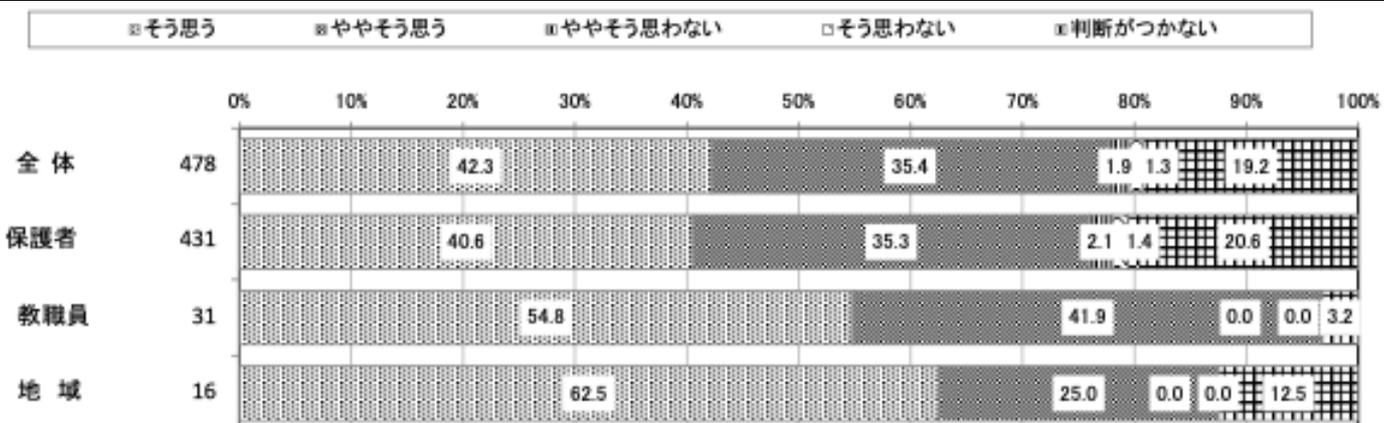
タブレットは毎日持ち帰ります。教員の目の届かない場所で使うことになるため、使い方、使う時間など、各ご家庭でのルールづくりをしていただくことも大切です。ぜひご協力ください。

⑰近隣の幼稚園・保育園と連携した「わくわく交流プロジェクト」の取組

設問 34 保護者・教職員・地域 近隣の幼・保育園児との交流活動が行われていることを知っている。



設問 35 保護者・教職員・地域 設問 34 の活動は、幼児にとっては「小1プロブレム」の解消、児童にとっては自己有用感や責任感などを育むのに役立っている。

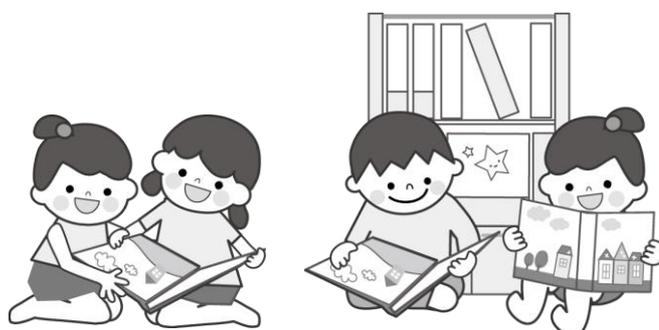


【肯定回答率 保護者等 77.6%】

(昨年度：保護者等 69.4%)

次年度に向けて

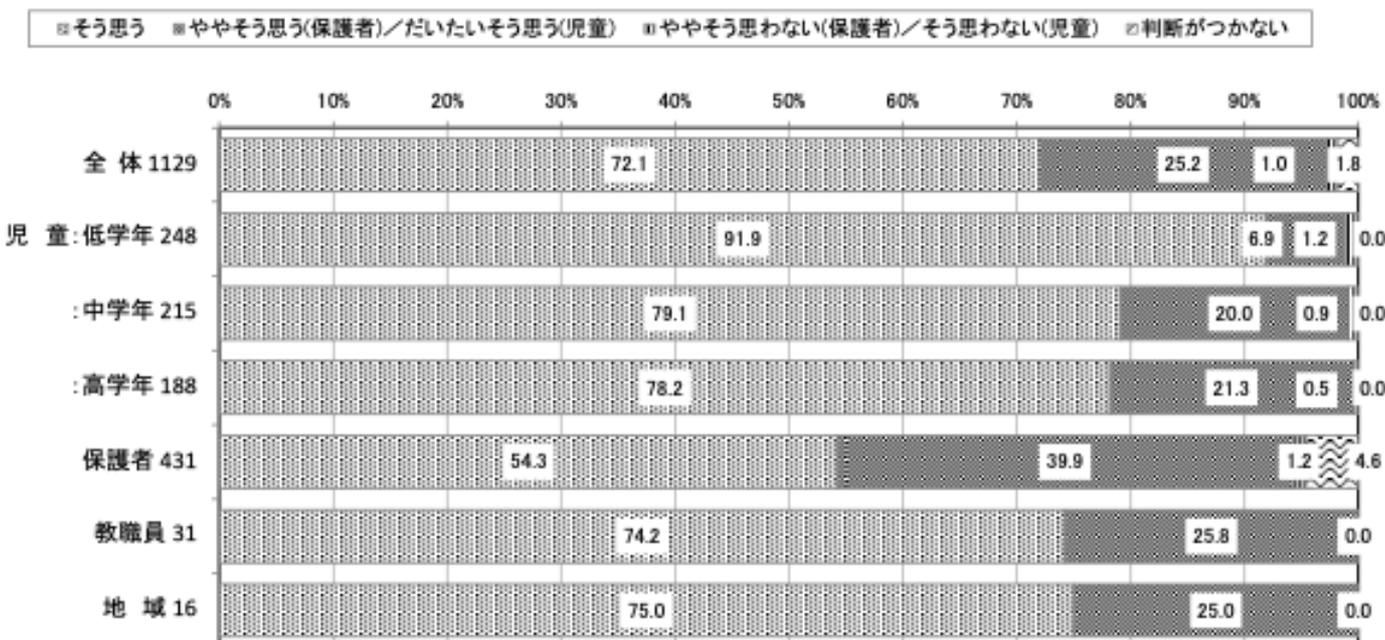
今年度は、幼稚園・保育園の園児たちを招いて、3年生児童が読み聞かせや昔あそびを一緒に行いました。この取組は学校生活の真ん中である中学年として学校に慣れた3年生児童が年下の幼稚園児、保育園児と接することで、小学校入学の頃の新鮮な気持ちを思い出すとともに上級生としての自覚が芽生える機会となっています。引き続きこうした児童の精神的な成長を促す機会を作っていきます。



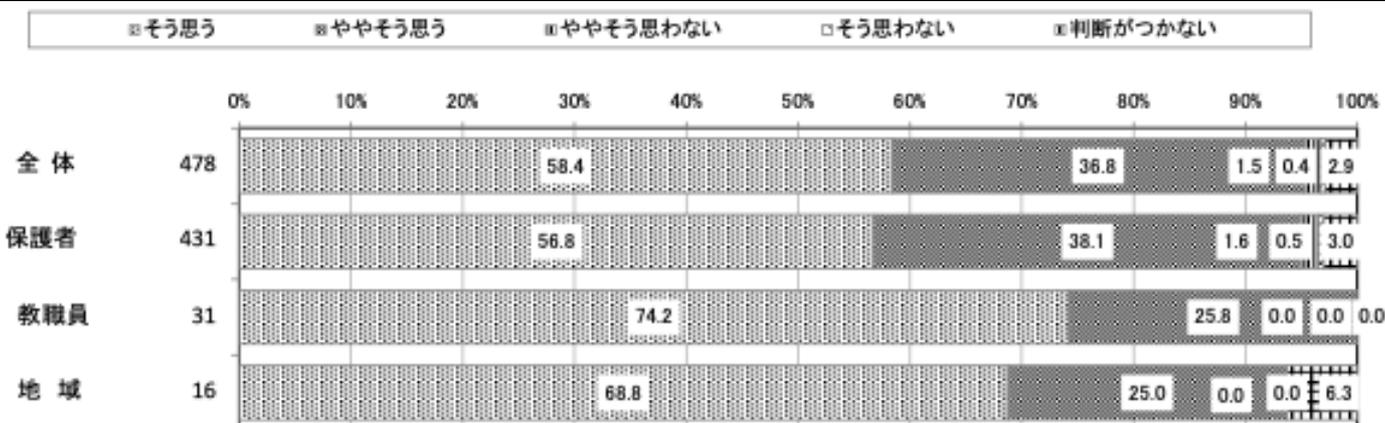
5 家庭・地域から信頼される学校運営の実現 (「ワクワクする学校づくり」を支える確かな基盤づくり)

⑧学校施設の安全、防犯、防災への取組

設問 36 1・2年生 ひなんくんれんでは、自分を守る方法を教わっています。
 3・4年生 避難訓練などで、災害の時は自分の身を守る方法を学んでいます。
 5・6年生 避難訓練などで災害の時に自分の身を守る方法を学んでいます。
 保護者・教職員・地域 学校施設の安全・防犯・防災設備や仕組みを導入することで、安全の確保に向けた取組が行われている。



設問 37 保護者・教職員・地域 多様な取組によって、児童が自分で身を守るための能力が育てられている。例えば、月一回の避難訓練、引き取り訓練、地域を含めた訓練、セーフティ教室や防災教育等



【肯定回答率 児童 99.1% 保護者等(設問 36)94.8% (設問 37)95.2%】

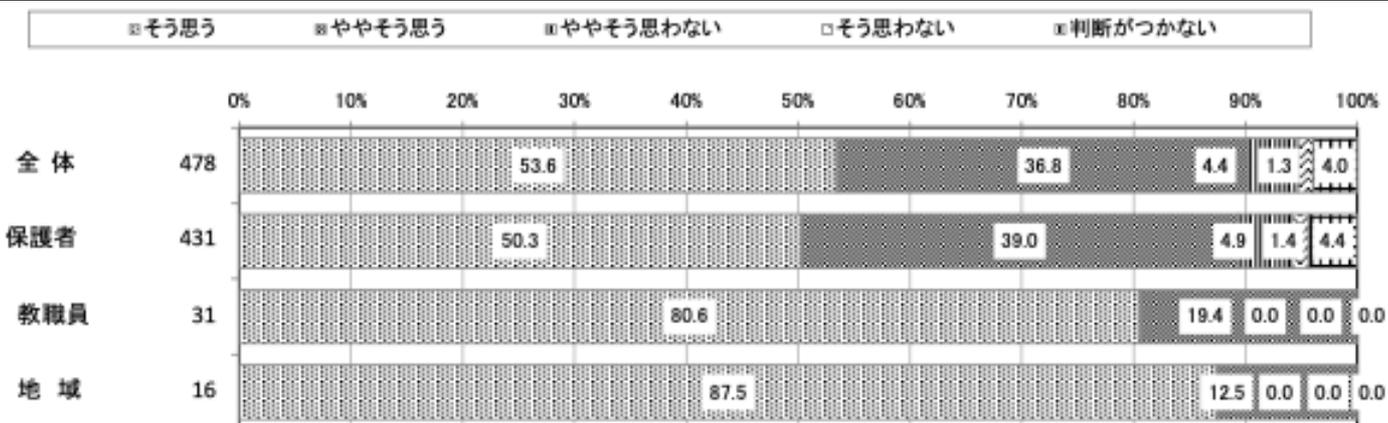
(昨年度:児童 98.7% 保護者等(設問 36)94.3% (設問 37)94.1%)

次年度に
 向けて

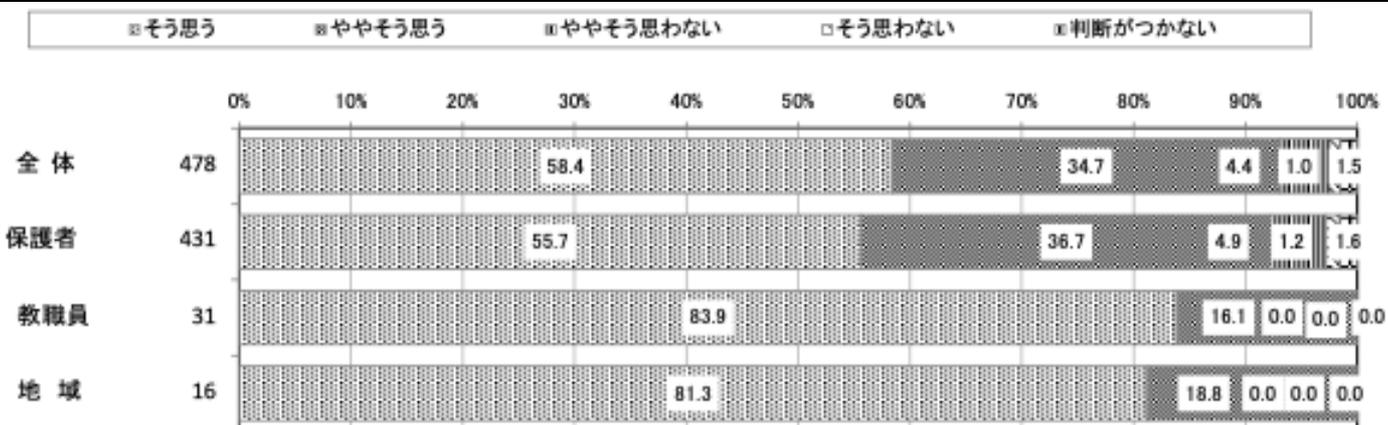
災害時への備えについて、様々な場面を想定した避難訓練を実施しています。また、天沼中への二次避難訓練を実施しました。今後も段階の通行ルール(右側通行、駆け上がらない、駆け下りない等)を徹底していきます。引き取り訓練はいざという時のために必要な危機管理の取組です。保護者の皆様も積極的に、かつ整然とご参加をお願いいたします。

⑨迅速かつ的確な情報の公開・提供

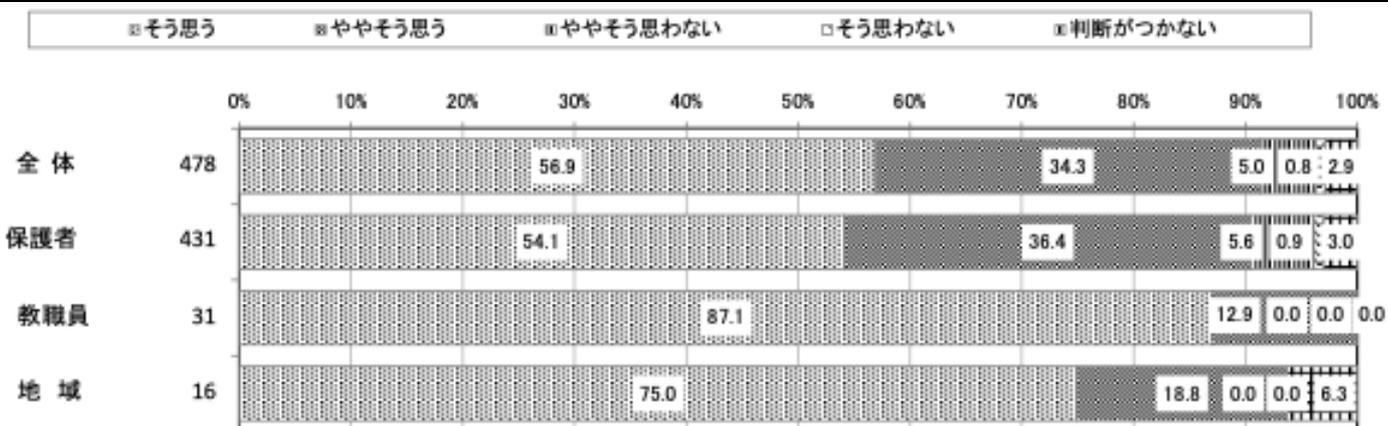
設問 38 保護者・教職員・地域 学校を取り巻くさまざまな情報が学校ホームページや「校長室だより」で提供されている。



設問 39 保護者・教職員・地域 学校を取り巻くさまざまな情報が、配布されるお手紙や配信ソフトで提供されている。例えば、あまぬまだより、給食だより、図書だより、保健だより、カウンセラー通信等



設問 40 保護者・教職員・地域 緊急メール配信システムの活用などを通して、迅速かつ的確な情報の提供・共有が図られている。



次年度に向けて

【肯定回答率 保護者等(設問 38)90.4% (設問 39)93.1% (設問 40)91.2%】

(昨年度：保護者等(設問 38)94.1% (設問 39)96.3% (設問 40)94.9%

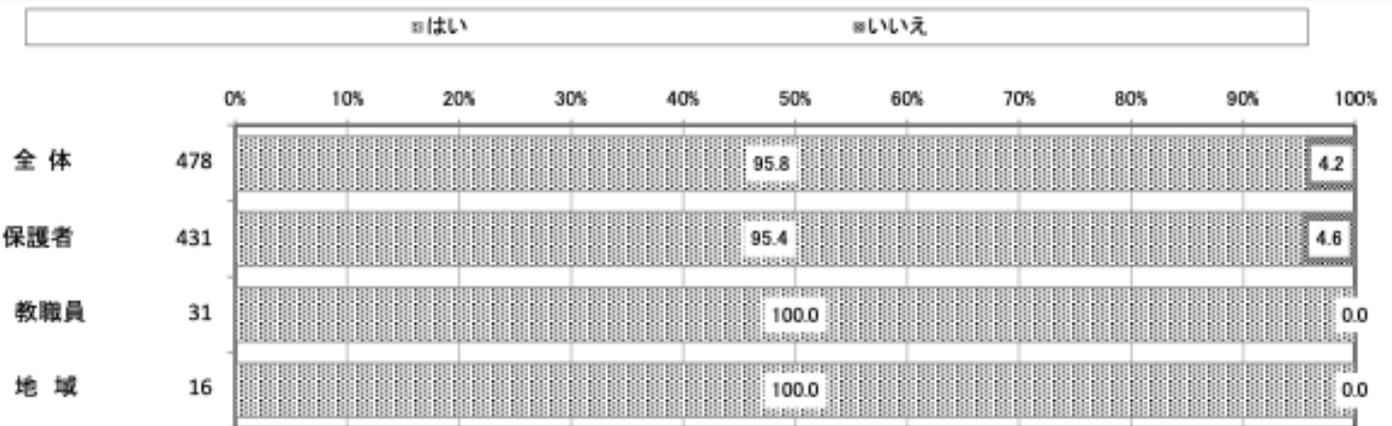
学校ホームページにてほぼ毎日更新されている「校長室だより」での配信が学校の様子を知っていただく一番の機会となっています。

2月1日より、学年だより、ほけんだより、学年毎の連絡が「tetoru」アプリを通じて行うことになりました。これにより、紙面の削減とともに、皆さんが学校からの情報に触れやすい環境の整備を進めることができました。今後も皆さんにとって利便性の高い情報提供の方法を検討していきます。

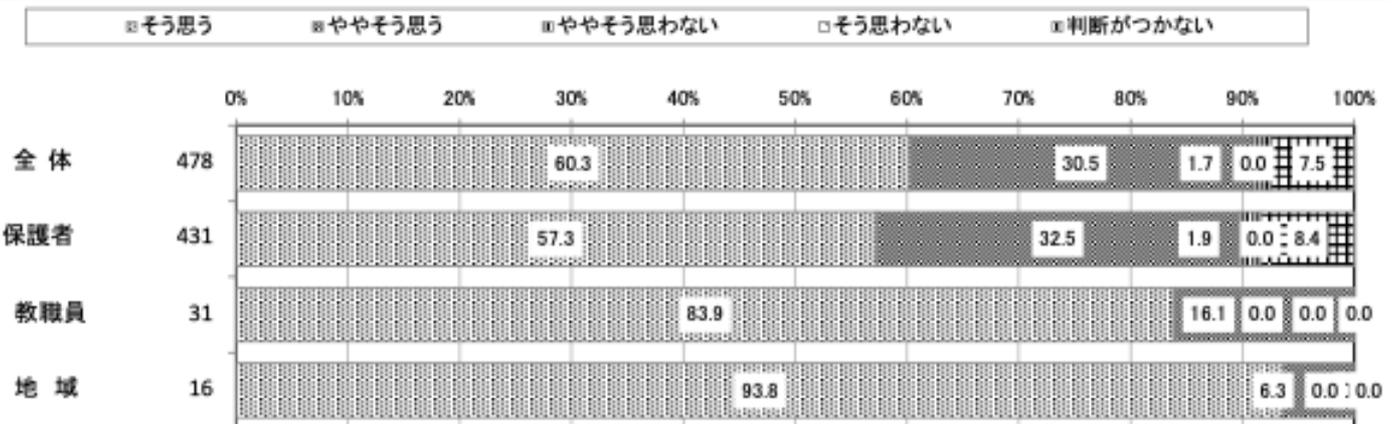
また、これまで使用してきました「すぐメール」は3月末を持ちまして運用を終了いたします。今後は学校からの連絡は主として「tetoru」アプリを通じて行いますので、学校から配信された情報をいち早く受け取れるように「通知を許可する」にアプリの設定をしていただくようお願いいたします。緊急時には、「tetoru」とともに「校長室だより」で情報提供することも検討していますので、こちらもご確認ください。

② 学校支援本部(あまぬまワンダラズ)との連携による「かわりとのつながり」を重視した地域学校協働活動の実施

設問 41 保護者・教職員・地域 天沼小では、学校支援本部(あまぬまワンダラズ)が、ゲストティーチャーやサポーターのコーディネートをはじめ、遠足等の引率、学習補助、「あまぬまハッピーさたでい」や「あまぬまハッピーくらぶ」の運営を担っていることを知っている。



設問 42 保護者・教職員・地域 学校支援本部(あまぬまワンダラズ)との協働によって、地域の力を生かしたさまざまな教育活動が行われていることが、天沼小の特徴的な教育活動となっている。



【肯定回答率 保護者等 90.8%】(昨年度：91.0%)

天沼小学校の教育活動において、学校支援本部の存在が欠かせないものとなっていることを改めて感じる結果となりました。

「地域」と「学校」とをつなぐ組織である「学校支援本部」(あまぬまワンダラーズ)によって地域連携を実現させています。例えば、校外学習や学校行事の引率補助や、学習補助、日本の伝統・文化理解教育や、キャリア教育をはじめとした、様々な授業への専門家のコーディネートなどが学校支援本部を通じて行われています。

このように、天沼小では各学習や行事に地域の方々の助力をいただいております、教職員と地域とが一緒になって、レベルの高い学習を実現しています。



“コラム”
「いじめ」防止に対する取組

保護者の皆さんにとって、「いじめ」に対する関心は大きいことでしょう。

天沼小学校では、いじめを生まない、許さない指導を中心として、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止・早期発見・早期解決ができるように組織的に取り組んでいます。

○未然防止の取組

(1) 子どもが安心して生活できる学校づくり(いじめを生まない指導)

自己肯定感や自尊感情を高めるために学級や学校全体を通して、子どもたちが活躍できる場面を計画、実践しています。また、たてわり班活動や委員会、クラブ活動等の異学年交流を通して一人一人が活躍できる場や機会を意図的に設定し、思いやりの心を育てることを目指しています。

(2) 教職員の意識向上(いじめを許さない指導)

毎週金曜の職員夕会では情報交換を全教職員で行っています。また、年2回自己の取組の振り返りを行い、指導の見直しに役立てています。

互いを認め合う心情を育てていくことができるような授業作りを目指しています。

○早期発見

(1) いじめアンケートの実施

毎学期1回、全児童で「いじめアンケート」に取り組んでいます。その結果を基にして、学級担任等が聞き取りを詳しく行い、早期発見ができるように努めています。

(2) 学級担任、専科教員による日常的な子どもへの声掛け

登校時の専科教員の挨拶、教室での学級担任の声掛けなど、多くの教職員が子どもたちと関わりながら様子の変化を見逃さないようにしています。

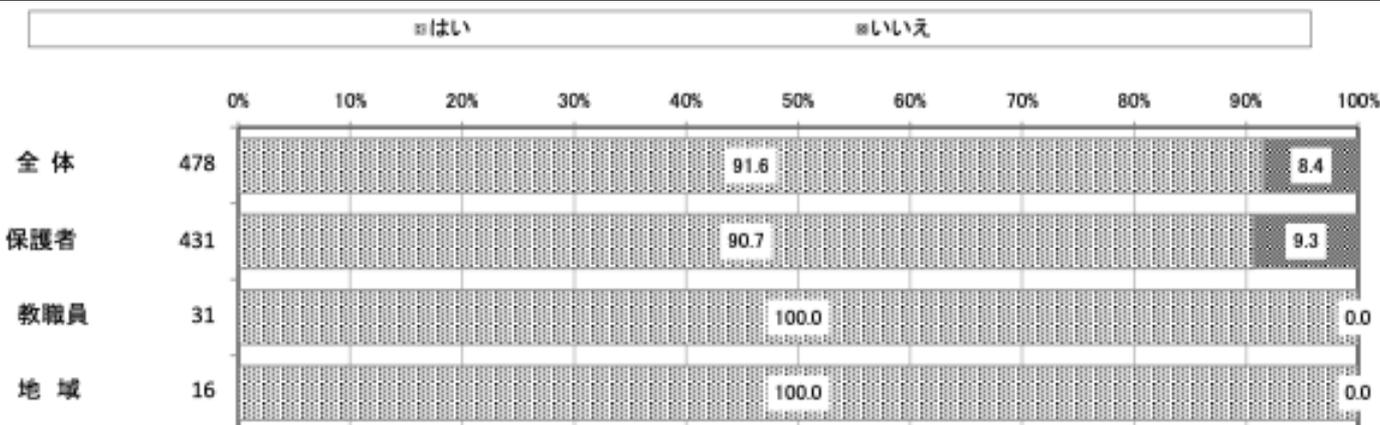
○早期対応「組織的な取り組み」

万が一「いじめ」を発見した場合には、校内の「いじめ対策委員会」を中心に早期対応を心掛けています。

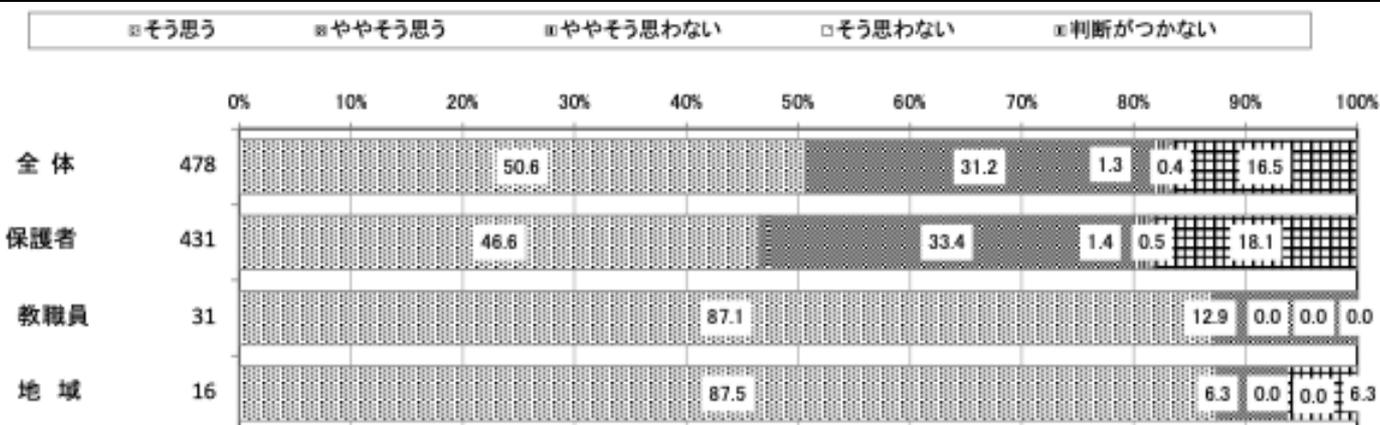
発見から解決までのフローチャートを参考にして情報交換を行い、子どもたち一人一人に配慮しながら解決に向けた取組を行っています。また、解決後も子どもの様子の観察を継続して行うようにしています。

② 「コミュニティ・スクール（地域運営学校）」としての学校運営

設問 43 **保護者・教職員・地域** 天沼小が地域住民・保護者・学識経験者等の意見から成る「学校運営協議会」で学校運営を共に考え、協働している「地域運営学校＝コミュニティ・スクール（CS）」であることを知っている。



設問 44 **保護者・教職員・地域** 天沼小では、「学校評価アンケート」で寄せられた評価・ご意見を生かし、「地域とともにある学校」としての取組を進めている。



次年度に向けて

【肯定回答率 保護者等 81.8%】（昨年度：83.0%）

天沼小では、様々な意見を学校運営に反映させるために、地域・保護者の代表や学識経験者などで構成された学校運営協議会が設置されており、校長先生とともに学校運営協議会が中心となって、子どもたちが質の高い教育を受けられるよう様々な検討を行っています。このような学校を地域運営学校「コミュニティ・スクール」と言っています。

今回のアンケートでいただいた声を次年度の教育課程に反映させていきます。地域の方々との連携をさらに深めて、子どもたちがさらにレベルの高い教育を受けることができるよう取り組んでまいります。地域・保護者の皆様に、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。また、学校運営協議会では、今年度より公式 note を設置し、情報の提供を開始しました。不定期でのアップとなりますが、こちらを通して学校の様子などをお伝えしていく予定です。

「今年度の目標」アンケート結果について

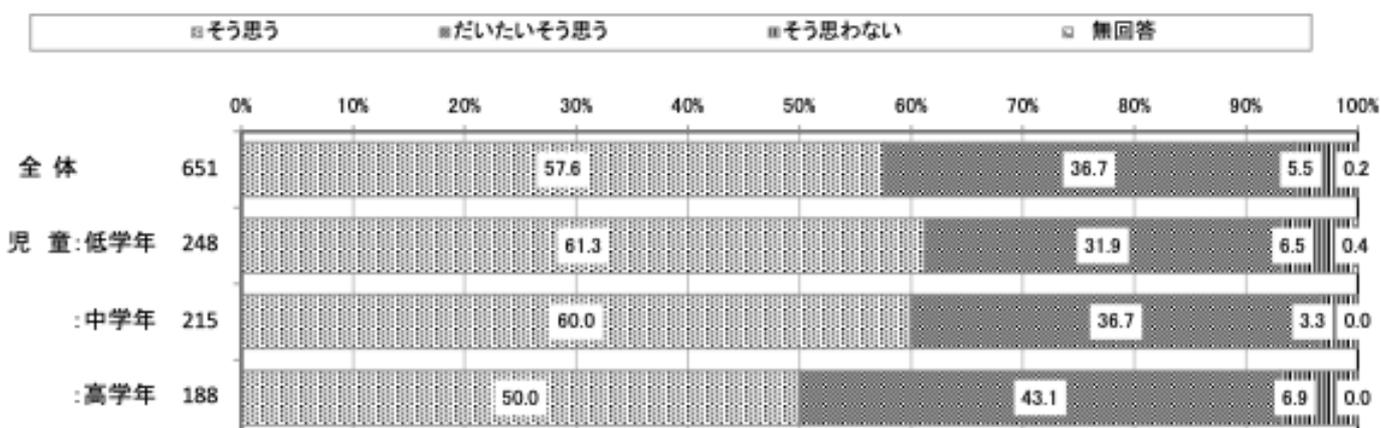


「天沼小学校がめざす教育」（5月発行）において、学校運営協議会から皆様へ以下の目標を提案させていただきました。

低学年「笑顔であいさつしよう！」
 中学年「相手のことを思いやろう！」
 高学年「自分の言葉で伝えよう！」

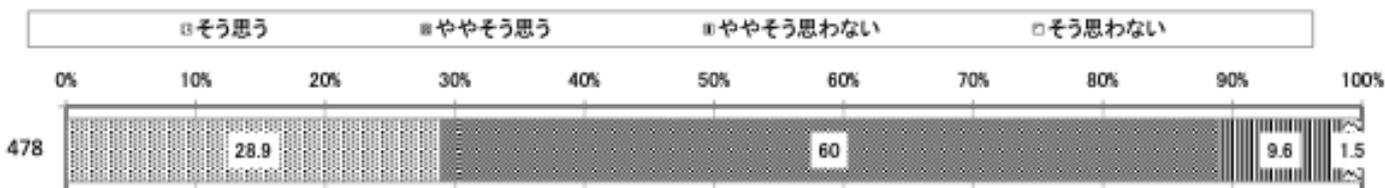
今年度の目標に対して、児童に以下のように質問した結果、以下の通りになりました。

設問	1・2年生	3・4年生	5・6年生
	だれとでも、笑顔であいさつができています。	相手のことをよく見て、よく知って、思いやる事ができています。	この一年間、自分の思いを自分の言葉で伝える事ができています。



年間を通して保護者・地域の皆様にもご協力いただき、その結果は以下の通りになりました。これからもみんなで取り組んでいきましょう。

この1年間を通して、お子さんは今年度の目標を達成できていたと思いますか？



この1年間を通して、お子さんに対して今年度の目標を達成しようと働きかけましたか？

